

No. 001

# 視聴覚技術研修分野見直し検討報告書

視聴覚技術研修分野見直し検討報告書

平成十三年三月

JICA LIBRARY



J1165294(8)

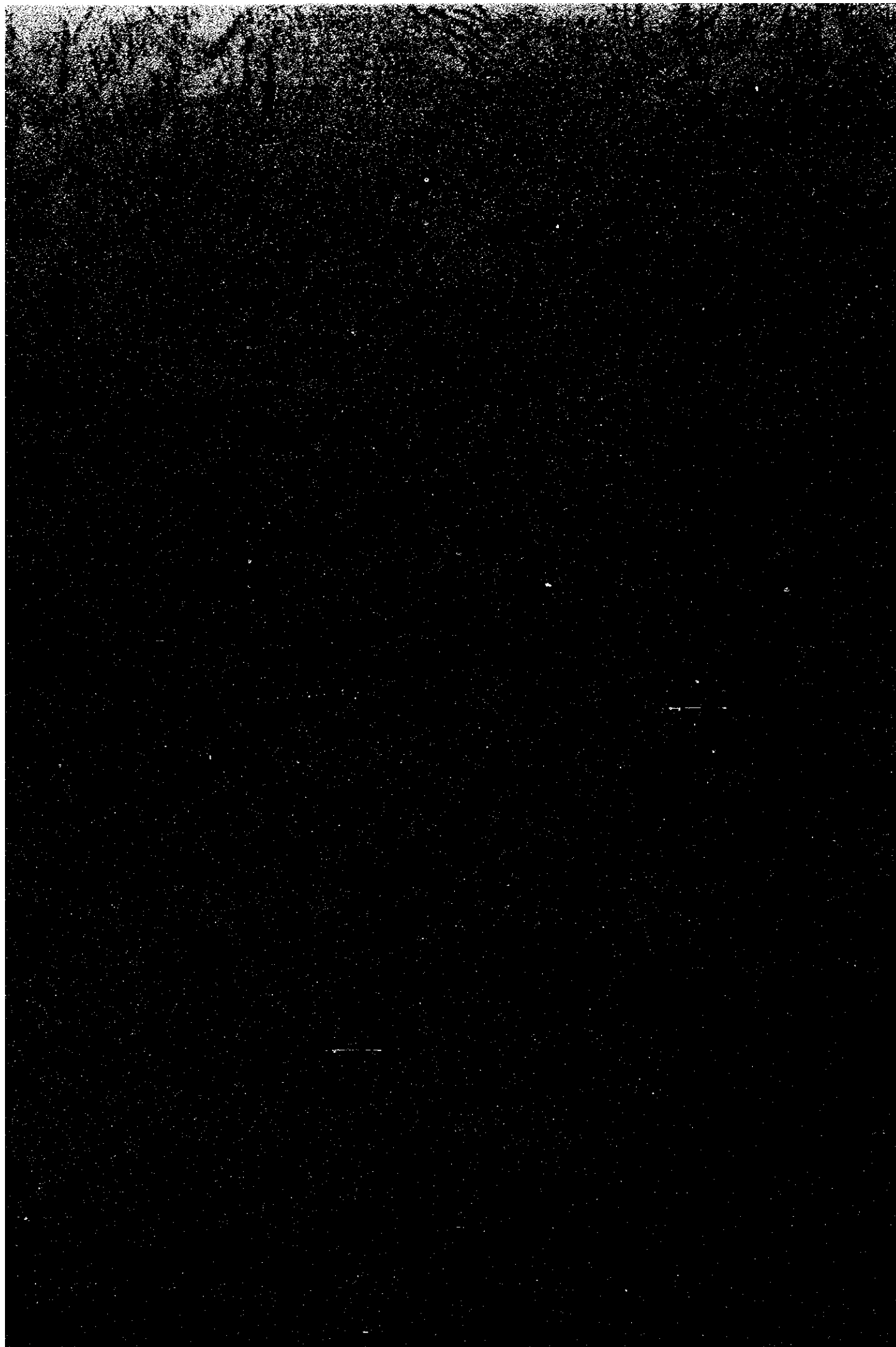
平成 13 年 3 月

国際協力事業団  
沖縄国際センター

国際協力事業団 沖縄センター

00451C

沖縄七
JR
00-5



## はじめに

近年、技術協力の量的拡大にともなって内容の質的向上が盛んに論じられるようになっており、視聴覚技術を技術協力の効果を上げる手段として位置づけることが国際協力に携わる者の中で定着し、開発途上国の教育訓練及び啓蒙普及活動における効果的な手段として視聴覚メディアの導入が進められてきた。

一方で、視聴覚メディアを取り巻くハード・ソフト面での技術革新は顕著で、特にコンピュータベースによる教材制作環境の進歩は目覚ましく、従来のアナログ系ビデオ制作システムは、殆どがコンピュータベースのデジタルシステムへ移行した。さらに、コンピュータネットワーク技術の進歩と記録媒体、データ圧縮技術等の向上によって、近年、大容量データの蓄積／共有化が飛躍的に進んでおり、インターネットは開発途上国でも徐々に普及する傾向にある。

沖縄国際センター（OIC）の視聴覚研修コースについては、昭和60年のセンター開設以来、コース体系の改善、拡充に努めながら過去3回の変遷を経て、実施されてきた。前回の大幅なコース見直しから既に6年が経過しており、この間の途上国のニーズは上述のような技術革新に伴い大きく変化していると考えられる。

本報告書は、国際協力経験を有する学識経験者を委員とした「見直し検討会」を中心とした一連の見直し検討作業の結果をまとめたものであり、既存研修カリキュラムの見直し及び途上国におけるニーズ分析を行い、これを基に、新コース体系（実施体制・カリキュラム・機材等）について提言している。

本書が視聴覚技術研修分野の更なる改善に有効に活用されることを期待するとともに、提言した内容については、可能な限り早急に着手し、将来の検討課題としたものは、詳細な検討を継続していきたい。

本見直し検討作業では、多くの方々から支援していただいた。とりわけ多忙な中、貴重なご意見を賜った委員の先生方、技術情報の収集とコース検討案作成に尽力された講師の皆様に心より感謝申し上げます。

平成13年3月

国際協力事業団  
沖縄国際センター  
所長 佐々木 豊



1165294(8)

# 目 次

(はじめに)

1. 視聴覚技術研修分野見直し検討実施要領 .....	1
1-1 背景と目的 .....	1
1-2 実施スケジュール .....	1
1-3 実施体制 .....	2
2. 視聴覚技術研修分野見直し検討方法 .....	3
2-1 見直し検討スケジュール .....	3
3. 視聴覚技術研修の現状分析 .....	5
3-1 研修員による研修コースの評価 .....	5
4. 視聴覚技術研修の業務実施体制 .....	9
4-1 実施体制 .....	9
4-2 他の協力形態との連携 .....	12
4-3 インターネットを利用した帰国研修支援 .....	17
4-4 研修設備及び資材 .....	43
5. 当該分野における途上国ニーズの分析・考察 .....	55
5-1 調査団の概要 .....	55
5-2 アンケート調査 .....	56
6. 視聴覚技術研修における新分野への提言 .....	58
6-1 新たな分野での研修カリキュラムの開発と今後の課題 .....	58
6-2 視聴覚技術コース新規カリキュラム案 .....	63
6-3 高度情報通信技術の研修コースへの応用 .....	72
参考資料	
アンケート調査用紙 .....	73
アンケート調査回答 .....	83



## 1. 視聴覚技術研修分野見直し検討実施要領

### 1-1 背景と目的

沖縄国際センター(OIC)の視聴覚研修コースについては、昭和60年のセンター開設以来、コース体系の改善、拡充に努めながら過去3回の変遷を経て、実施されてきた。コース体系の検討にあたっては、研修員からの意見・要望・技術革新動向等を考慮した毎年の小規模な見直しに加え、4年間のコース体系・方針を見越した大規模なコース見直しを行っている。前回の大幅なコース見直しから既に6年が経過し、この間の途上国のニーズは技術革新に伴い大きく変化していると考えられる。

係る状況の元、本見直し作業にあたっては「見直し検討会」を開催し、視聴覚研修の基本方針案/コース体系改定案について、国際協力経験を有する学識経験者から指導・助言を受け、また、協議・検討を重ねることにより、平成13年度からの実施を目標に、途上国の現状、ニーズ及び将来像に適合した研修コースへの改善を図ることとなった。

### 1-2 実施スケジュール

視聴覚技術研修分野見直しは、外部委員会（当センターの第3者的な立場にある当該分野有識者）による「検討会」を主体として見直し作業を実施した。また、同委員会の発足は平成12年4月（平成12年度）であるが、非公式に当該分野の有識者及びOIC視聴覚研修関係者で「事前検討会」と称して平成12年1月（平成11年度）から同分野の見直し作業を実施してきた。事前検討会および検討会の実施スケジュールは以下のとおりである。

	実施日	場所	年度
第1回事前検討会	平成12年2月7日	沖縄国際センター	平成11年度
第2回事前検討会	平成12年3月14日	沖縄国際センター	平成11年度
第1回検討会	平成12年4月28日	沖縄国際センター	平成12年度
第2回検討会	平成12年6月2日	沖縄国際センター	平成12年度
第3回検討会	平成12年9月5日	沖縄国際センター	平成12年度
中間報告会	平成12年10月13日	JICA本部	平成12年度

### 1-3 実施体制

視聴覚技術研修分野見直し外部委員会は、国際協力事業団 沖縄国際センターが行っている視聴覚研修コース体系の見直しに関し、その基本方針案／コース体系改定案について、国際協力経験を有する学識経験者の立場から指導・助言するものであり、これにより沖縄国際センターが途上国の現状、ニーズ及び将来像に適合した新コース体系案を十分検討できるようにするものである。検討委員及び事務局は以下のとおり。

#### [検討委員]

	氏名	所属	役職
1	中野 照海	国際基督教大学	教授
2	上原 盛文	元・琉球大学教授	
3	家野 宰輔	元・ニューヨーク州立大学教授 元・視聴覚室主任	
4	吉田 昌生	国際協力事業団	国際協力専門員

#### [事務局]

	氏名	所属	役職
1	佐々木 豊	沖縄国際センター	所長
2	金城 誠一	沖縄国際センター業務課	業務課長
3	熊谷 信広	沖縄国際センター業務課	業務課長代理
4	水野 由起子	沖縄国際センター業務課	業務課職員

#### [その他協力者]

	氏名	所属	役職
1	平野 偉	日本国際協力センター沖縄支所	支所長
2	村上 健	日本国際協力センター沖縄支所	支所長代理
3	前川 朝康	日本国際協力センターAVT室	主任代理
	その他視聴覚講師	日本国際協力センターAVT室	



## 2. 視聴覚技術研修分野見直し検討方法

### 2-1 見直し検討スケジュール

平成12年4月（平成12年度）の視聴覚技術研修分野見直し検討会発足より以前から非公式に当該分野の有識者及びOIC視聴覚研修関係者で「事前検討会」と称して平成12年1月（平成11年度）から同分野の見直し作業を実施してきた。従って、本見直しの開始時期は別表のとおり実際は平成12年1月である。なお、同分野の見直し作業を進めるにあたり、以下の点を考慮して実施した。

#### <現状分析>

- ① 研修コース修了時に実施する研修員からのコースに対する評価であるクエスチョネア
- ② 他の協力形態の分析（プロ技、開発調査、在外研修、他機関の協力事業等）

#### <ニーズ調査>

- ① 平成12年4月2日から4月15日にかけて派遣した帰国研修員フォローアップ調査団（視聴覚技術研修分野見直し調査団）
- ② 各国における視聴覚技術レベル、機材動向および研修ニーズ等を把握するために1997年度以降の帰国研修員、視聴覚教材（教育・啓蒙活動等に用いる）の開発を実施している機関、JICA派遣専門家、青年海外協力隊やその他視聴覚研修関連機関等を対象に実施したアンケート調査

上記のポイントを考慮し、外部委員会において検討を重ね、平成13年度から以降4年間にわたる中期計画として、研修コース体系、カリキュラム、使用機材・ネットワーク環境、研修運営・実施体制等にかかる案を作成した。

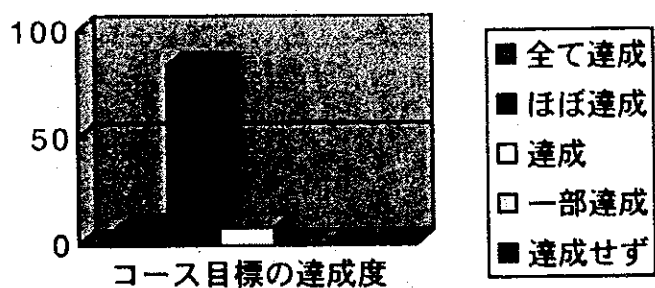


### 3. 視聴覚技術研修の現状分析

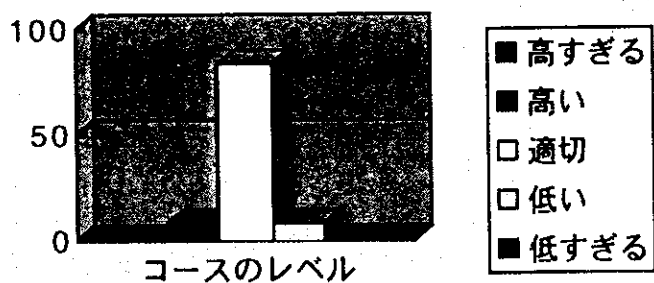
#### 3-1 研修員による研修コースの評価

研修終了時に行っているクエスチョネアによると、コース目標の達成度においては研修員の多くがほぼ達成としている。これは、研修員が研修終了後に自己を省みたとき、その成長ぶりやスキルアップを実感できたからに他ならない。また、その他の質問に対してもおしなべて現状を肯定的に評価しているコメントが多い。これは、視聴覚技術研修が、4年毎に実施しているコース体系の大幅な改善だけでなく、毎年毎年小規模の改善を行っており、研修員の新たなニーズに対応するように努めていることが一つの理由であろう。

<コース目標の達成度>

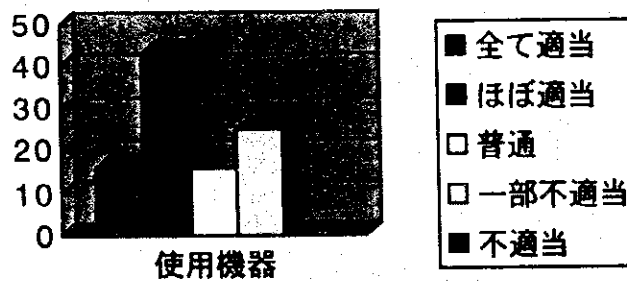


<コースのレベル>

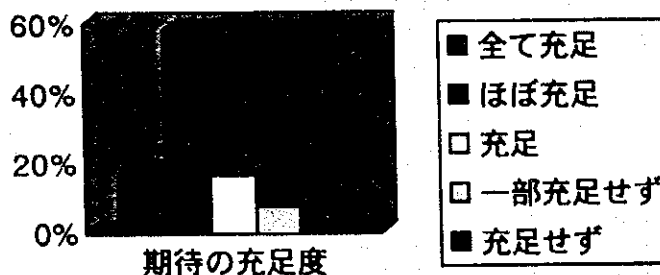


ただし、「使用機器」で“一部不適當”の回答が有り、これが「期待充足度」での“一部充足せず”という意見に大きく影響を与えていることも無視できない。研修員は最新の技術を期待して研修に応募してくるケースが多々有るが、実際に現在OICで使用している機材は平成8年度に導入されたものであり、特にPC系は、画像の処理や交換を行う同研修の円滑な実施に支障を来している。研修の最中にも、画面がフリーズしてしまったり、故障が発生したりと、研修員が満足し、且つ、安心して研修に臨むには、機材の更新が急務であるだろう。

<使用機器>



<期待の充足度>



また、日常の研修において、インターネット科目の日数増を望む声が高まっていることも最近特に顕著である。インターネットへのニーズについては、今後ともwebホームページの作成等、コンテンツ重視の技術研修を実施したい。

最後に研修員の選考について触れておきたい。世界各国から研修員が応募してくるため、研修を実施する前から個人のスキルに差が有るのは避けようがない。研修員間のレベル差については、研修員自身も指摘している。より効率的

且つ効果的な研修を実施するためには研修員のレベル差をできる限り揃える必要が有る。また、OIC視聴覚技術研修は、単なる技術修得の為の研修ではなく、“ある特定の目的を達成するためにはどのように内容（コンテンツ）を制作することが最も適しており効果的であるか”を学ぶことを目的としている。従って、教育や訓練分野で活躍する者を対象に研修を実施していることをさらに明確化し、研修員のバックグラウンドやコースの最終目的に対する意識を均一化することも重要である。

研修員による評価（全15項目）

1. コース目標の達成度	
達成せず	0%
一部達成	0%
達成	8%
ほぼ達成	84%
全て達成	8%

6. コースのレベル	
低すぎる	0%
低い	8%
適切	84%
高い	8%
高すぎる	0%

11. コース運営	
非常に悪い	0%
悪い	0%
普通	8%
良い	42%
非常によい	50%

2. 期待の充足度	
充足せず	0%
一部充足せず	8%
充足	17%
ほぼ充足	58%
全て充足	17%

7. コース期間	
短すぎる	0%
短い	50%
適切	50%
長い	0%
長すぎる	0%

12. 使用機器	
不適切	0%
一部不適切	25%
普通	16%
ほぼ適切	43%
全て適切	16%

3. 講義配分	
少なすぎる	0%
少ない	0%
適切	83%
多い	17%
多すぎる	0%

8. 研修内容の深さ	
浅すぎる	0%
浅い	33%
適切	67%
深い	0%
深すぎる	0%

13. 各科目の制作期間	
短すぎる	8%
短い	17%
適切	75%
長い	0%
長すぎる	0%

4. 実習配分（個人）	
少なすぎる	0%
少ない	17%
適切	66%
多い	17%
多すぎる	0%

9. 研修員の数	
少なすぎる	0%
少ない	0%
適切	83%
多い	17%
多すぎる	0%

14. 制作グループの人数	
少なすぎる	0%
少ない	0%
適切	92%
多い	0%
多すぎる	8%

5. 実習配分（集団）	
少なすぎる	0%
少ない	8%
適切	75%
多い	17%
多すぎる	0%

10. 科目の配列	
悪い	0%
普通	50%
良い	50%

15. 講師の支援・助言	
少なすぎる	0%
少ない	0%
適切	83%
多い	17%
多すぎる	0%

## 4. 視聴覚技術研修の業務実施体制

### 4-1 実施体制

現在、視聴覚技術研修3コースの指導体制は、視聴覚研修室主任代理1名、専任インストラクタ6名、アシスタント1名で、一部の科目を外部講師に委託し実施している。

また、研修コース運営に関する指導や助言など、国内協力者として中野照海国際基督教大学大学院教授、吉田昌生JICA国際協力専門委員、家野宰輔元筑波大学教授の3名からなる「視聴覚研修室外部支援委員会」が視聴覚技術研修コース運営をサポートしている。

視聴覚研修コースの運営管理は、(財)日本国際協力センターに一括請負契約されており、各インストラクターの業務上の身分は同財団の1年契約の特別技術嘱託である。

視聴覚研修コースは、JICA沖縄国際センター設立と同時に開設され次年度で17年目を迎える。平成2年度と平成6年度には、フォローアップやニーズ調査等の結果に基づき、コース体系やカリキュラム改善等を含めた視聴覚研修コース全般に亘る改編を行った。

従来コースの統廃合や新規再編成等、今回の研修コース見直しによって、視聴覚技術研修開設以来3度目の改編となった。

視聴覚メディアを取り巻くハード・ソフト面での技術革新は顕著で特に、PCベースによる教材制作環境の進歩は目覚ましく従来のアナログ系ビデオ制作システムは、殆どがPCベースのデジタルシステムに移行した。更に、PCや周辺機器を活用することで、動画や音声、静止画像やテキストなどの加工処理が容易になり、個人レベルでのマルチメディア教材制作を可能にした。

また、PCネットワーク技術の進歩と記録媒体、データ圧縮技術等の向上によって、大容量データの蓄積/共有化が飛躍的に進んでいる。更に、インターネットは途上国でも徐々に普及する傾向にあり、現在実施している研修コースでもインターネットを科目として取り入れ、研修員のインターネット利用を促している。教育機関や民間企業では、インターネットの教育/研修利用への可能性について様々な角度から研究が行われており、一部では既に運用ベースに乗っている。

昨年度、第4回帰国研修員フォローアップ調査と平行して実施した「視聴覚

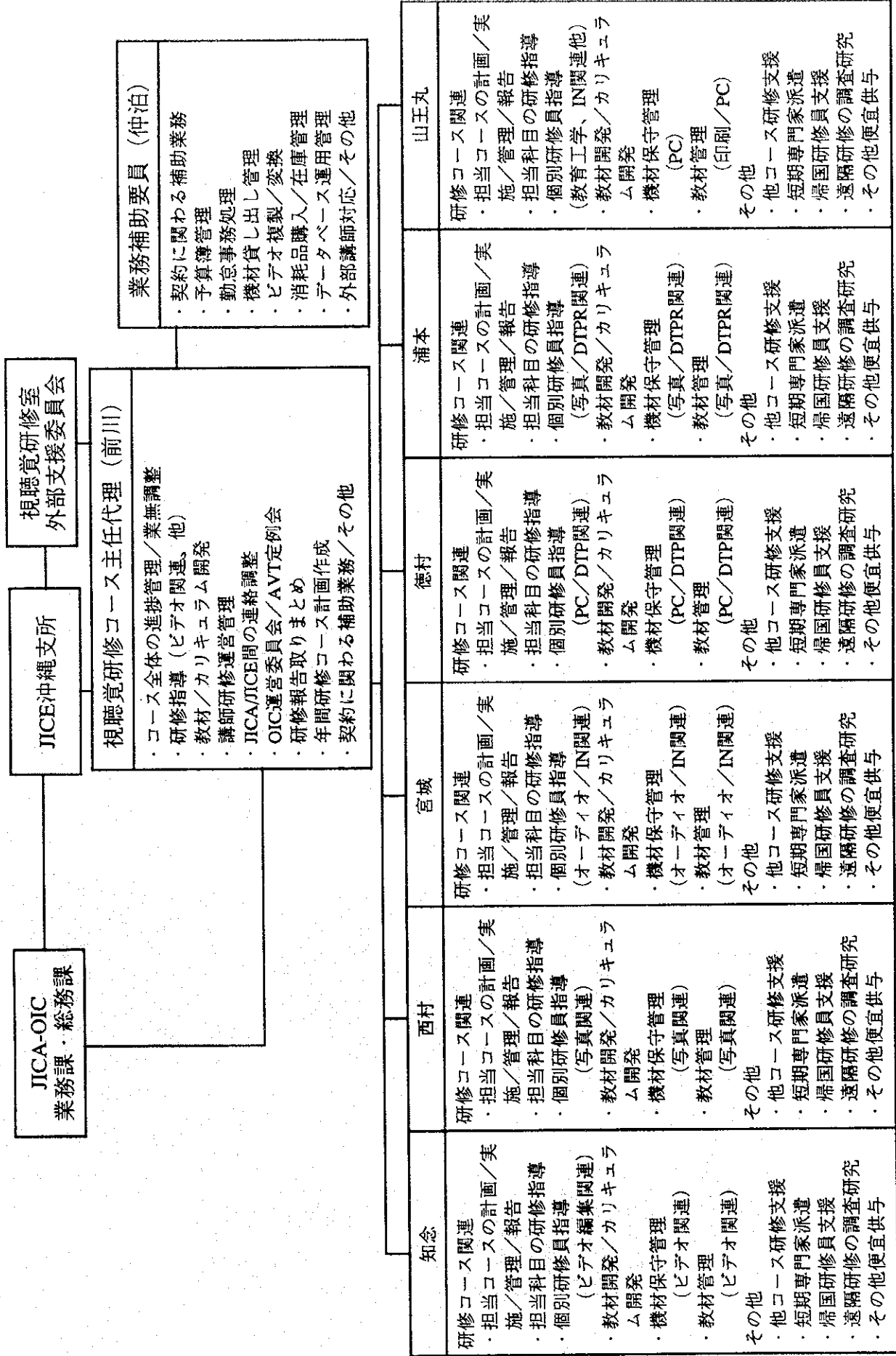
研修コース見直しに係るアンケート調査」によると、殆どのメディア制作機関がパーソナルコンピュータを利用した教材制作システムを導入している、或いは導入を予定していると回答している。具体的には、DTPによるテキスト教材の作成とDTPRによるプレゼンテーション教材の制作やインターネットの利用などであるが、機関によっては、視聴覚研修室で使用する機材よりも高性能な機材が国際援助機関や先進国援助機関によって供与されている。また、ビデオ教材制作の分野についても、コンピュータベースによるノンリニアデジタルビデオ編集システムが導入されており、将来的に導入予定であるという回答が数多い。

メディア制作機材のデジタル化とパーソナルコンピュータやインターネットの普及と利用によって教材制作活動分野のハード/ソフト環境に変化をもたらした。平成6年に行われたコース体系の見直しから6年が過ぎ、OIC視聴覚研修では、メディア教材制作分野を取り巻く新技術の動向に注目しながら効果的な研修コースの運営が求められている。

技術革新の動向を背景にした研修ニーズの変容に対する確に対応するためには、定期的なコース体系の見直し改編作業の他、機材や人材及びそれに関係する中長期的予算の確保など視聴覚研修運営の実施体制を整備拡充する必要がある。とりわけ、人材面に於いては研修講師の業務上の身分が1年契約の特別技術嘱託という性格上、公募による人材確保は過去の経緯から難しい。一方、メディア分野の技術協力では、各プロジェクトからの専門家派遣要請や第三国研修に対する協力依頼など在外からの後方支援要請が多く、また、国内研修に於いても、サンゴ礁保全コースやマングローブ生態系管理コース、廃棄物管理コース等に対する支援の例に見られるように、視聴覚研修コース以外からの研修支援ニーズも高い。情報技術の利用が進むなか視聴覚研修室がこれまでに蓄積した知識や技能、経験に対するニーズは、国内外の技術協力スキームへの横断的支援実績が示すよう日々高まっている。次年度以降は、現有3コースに加え新たに特設コースの提案や研修指導体制の拡充、研修施設の整備等、技術協力分野において手段としての視聴覚メディアをアピールし、様々なニーズに応える業務実施体制の整備が求められている。(資料参照)



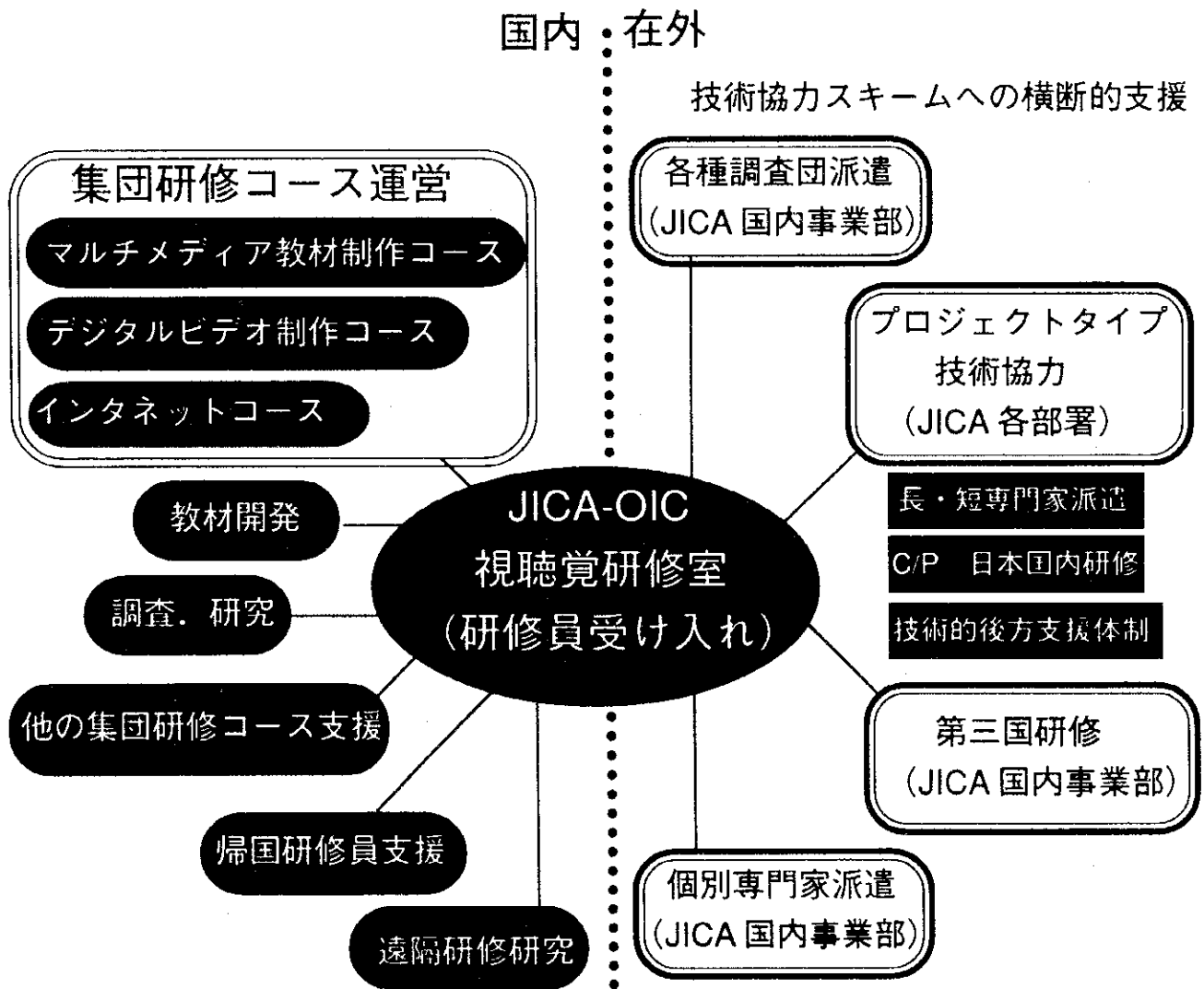
視聴覚研修室業務実施体制（職務分担概略）



#### 4-2 他の協力形態との連携

視聴覚技術は、多種多様なコンテンツを効果的に伝えるためのツールである。従って、分野を問わず、横断的な対応が可能であるため、プロジェクトや第三国研修、個別専門家からのニーズは高い。現在の所、OICの視聴覚技術研修として可能な協力形態は、

- (1) カウンターパート研修（集団コース参加が原則）
- (2) 個別研修（数日間の特定の科目に特化した研修。但し、集団コースの実施が最優先とする。）
- (3) 他研修コースの支援（他の研修コースに一部視聴覚研修を実施。例えば、レポートの発表に必要なプレゼンテーションスキル等）
- (4) 指導員の短期専門家派遣（集団コースの実施が最優先であることに留意）



視聴覚研修室を核とした支援の概念

視聴覚技術研修室スタッフ専門家派遣実績

2001.3.26

専門家氏名	長期/短期	任国	プロジェクト名	指導科目	期 間
昭和62年度 (FY87)					
久保田賢一	短期	フィリピン	人材開発センター	メディア制作	7月7日 ~ 8月8日
久保田賢一	短期	フィリピン	人材開発センター	メディア制作	1月5日 ~ 1月25日
昭和63年度 (FY88)					
山城吉徳	短期	タイ	公衆衛生	メディア制作	6月11日 ~ 7月11日
山城吉徳	短期	エジプト	JICA総務部広報課	メディア制作	9月28日 ~ 10月14日
前川朝康	短期	エジプト	JICA総務部広報課	メディア制作	9月28日 ~ 10月14日
島袋和子	調査団	タイ他2国	フォローアップ調査	視聴覚メディア	8月7日 ~ 8月24日
平成元年度 (FY89)					
無し					
平成2年度 (FY90)					
無し					
平成3年度 (FY91)					
知念潤	短期	トルコ	人口教育促進	メディア制作	4月24日 ~ 6月15日
山城吉徳	短期	ネパール	防災プロジェクト	メディア制作	6月24日 ~ 8月9日
山城吉徳	長期	トルコ	人口教育促進	視聴覚教材制作	1992年3月1日 ~ 1994年5月
平成4年度 (FY92)					
前川朝康	短期	フィリピン	理数科教師訓練	メディア制作	6月11日 ~ 8月25日
平成5年度 (FY93)					
家野幸輔	調査団	PNG他2国	視聴覚ニーズ調査	視聴覚メディア	8月6日 ~ 9月5日
宮城睦	調査団	PNG他2国	視聴覚ニーズ調査	視聴覚メディア	
伊藤拓次郎	短期	フィリピン	家族計画母子保健	情報技術	8月6日 ~ 9月5日
西村修司	調査団	ケニア/トルコ	フォローアップ調査	視聴覚メディア	12月5日 ~ 12月21日
家野幸輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	1月16日 ~ 2月7日
知念潤	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	1月16日 ~ 2月7日
平成6年度 (FY94)					
知念潤	長期	トルコ	家族計画	メディア制作	1994年6月 ~ 1996年6月
家野幸輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	7月4日 ~ 7月13日
前川朝康	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	7月4日 ~ 7月13日
伊藤拓次郎	短期	フィリピン	母子保健	メディア制作	7月19日 ~ 8月27日
西村修司	短期	フィリピン	母子保健	メディア制作	7月19日 ~ 8月6日
山城吉徳	短期	ネパール	JICA総務部	広報ビデオ制作	3月1日 ~ 3月31日
平成7年度 (FY95)					
家野幸輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	6月17日 ~ 7月10日
前川朝康	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	6月17日 ~ 7月10日
宮城睦	短期	フィリピン	母子保健	メディア制作	11月8日 ~ 11月28日
平成8年度 (FY96)					
前川朝康	長期	テュニジア	人口教育促進	視聴覚教材開発	1996年3月22日 ~ 1999年3月23日
家野幸輔	短期	ネパール	結核対策	IEC	5月9日 ~ 6月6日
徳村朝昭	短期	ネパール	結核対策	IEC	5月9日 ~ 6月6日
山城吉徳	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	6月22日 ~ 7月9日
家野幸輔	短期	フィリピン	母子保健	評価	6月27日 ~ 7月10日
家野幸輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	視聴覚技術	6月27日 ~ 7月10日
伊藤拓次郎	長期	トルコ	家族計画	メディア制作	1996年7月16日 ~ 派遣中
山城吉徳	短期	フィリピン	母子保健	メディア制作	8月24日 ~ 9月14日
家野幸輔	短期	インドネシア	第三国研修	IEC	8月25日 ~ 9月22日
知念潤	短期	テュニジア	人口教育促進	プロジェクト評価	9月16日 ~ 9月30日
家野幸輔	短期	テュニジア	人口教育促進	IEC	3月10日 ~ 3月23日
平成9年度 (FY97)					
家野幸輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	IEC	1月14日 ~ 1月30日
山城吉徳	短期	フィリピン	母子保健	教材制作	1月14日 ~ 2月11日
家野幸輔	短期	トルコ	家族計画	IEC	2月20日 ~ 3月15日
宮城睦	短期	フィリピン	母子保健	教材制作	2月8日 ~ 2月28日
徳村朝昭	短期	テュニジア	人口教育促進	メディア制作	3月14日 ~ 4月3日

平成10年度 (FY98)					
西村修司	短期	チュニジア	人口教育促進	メディア制作	1月16日 ~ 2月2日
知念潤	短期	チュニジア	人口教育促進	メディア制作	1月23日 ~ 2月8日
宮城睦	調査団	パナマ他	フォローアップ調査	視聴覚メディア	11月2日 ~ 11月16日
浦本寛史	調査団	パナマ他	フォローアップ調査	視聴覚メディア	1月23日 ~ 2月8日
家野宰輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	IEC	3月2日 ~ 3月31日
山城吉徳	長期	フィリピン	エイズ対策	IEC	4月1日 ~ 派遣中
知念潤	短期	フィリピン	ボホール農業開発	メディア制作	3月28日 ~ 4月10日
平成11年度 (FY99)					
徳村朝昭	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	IEC	8月22日 ~ 9月19日
家野宰輔	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	IEC	9月30日 ~ 10月1日
前川朝康	短期	チュニジア	ONFP第三国研修	コース運営	10月29日 ~ 12月7日
前川朝康	短期	インドネシア	MMTC第三国研修	TV番組制作	1月22日 ~ 2月19日
平成12年度 (FY00)					
家野宰輔	調査団	タイ他2国	フォローアップ調査	視聴覚メディア	4月2日 ~ 4月15日
山王丸浩子	調査団	タイ他2国	フォローアップ調査	視聴覚メディア	4月2日 ~ 4月15日
徳村朝昭	短期	インドネシア	BKKBN第三国研修	IEC	9月5日 ~ 10月5日
前川朝康	短期	チュニジア	ONFP第三国研修	コース運営	10月7日 ~ 10月22日
浦本寛史	短期	インドネシア	MMTC第三国研修	TV番組制作	10月15日 ~ 11月12日
山王丸浩子	調査団	タイ	プロジェクト形成	視聴覚メディア	2001年2月27日 ~ 2001年3月9日

平成8年以降の視聴覚研修コース以外の研修支援実績

コース名	受入人員	内容	研修日程	日数	担当講師
<b>平成8年度 (FY96)</b>					
カンボジア専門家研修 山上清子	1	技術普及手法	9/2～9/6、9/9～9/13	10	徳村
メキシコ職業教育C/P Ms. Diana	1	DTPおよびDTPR	10/29～11/20	17	家野・ハイメ
ハンガリー生産性向上C/P Mr. Istvan	1	DTP、DTPR、Internet	2/25～3/3	5	宮城・徳村
小計	3名			32日	
<b>平成9年度 (FY97)</b>					
ファミリー計画母子保健C/P Ms. Lopez	1	DTP、DTPR	4/2～4/8	4	徳村
JOCV技術補完研修 藤田ゆう	1	スライド教材制作	6/13～7/3	15	知念
サンゴ礁保全	6	DTP	7/3、7/4、7/7～7/9	5	家野・徳村
地方自治体行政実務	3	DTP	7/3、7/4、7/7～7/9	5	家野・徳村
稲作 (筑波国際センター)	10	視聴覚教材制作	8/12～8/15	4	徳村
持続可能なマングローブ生態系管理技術	7	技術普及手法	9/18、9/19、11/5、11/7、11/13	5	徳村
熱帯農林	1	技術普及手法	9/18、9/19、11/5、11/7、11/13	5	徳村
カンボジア専門家研修 藤田直子	1	技術普及手法	12/1～12/5	5	徳村
小計	30名			48日	
<b>平成10年度 (FY98)</b>					
トルコ家族計画母子保健C/P Ms. Deniz	1	IEC	4/13～4/17	5	家野
稲作 (筑波国際センター)	10	視聴覚教材制作	5/27～5/29	3	家野・徳村
トルコ家族計画母子保健C/P Mr. Bolukbas	1	写真	7/21～8/21	24	西村・浦本
サンゴ礁保全	6	DTP	7/10、7/15～7/21	5	家野・徳村
持続可能なマングローブ生態系管理技術	6	技術普及手法	9/24午後、9/25、10/28～11/4	6.5	家野・浦本・徳村
専門家 (CDN) 派遣前研修森仲紘一：ラオス；宮崎正：インドネシア	2	DTP、Internet	9/8～9/10	3	徳村・宮城
バヌアツC/P Mr. Mark	1	写真	2/22～3/5、3/15～3/16	12	浦本
小計	27名			58.5日	
<b>平成11年度 (FY99)</b>					
公衆衛生行政管理 (国立公衆衛生院)	13	IEC	6月29日	0.5	家野・前川・徳村
象牙海岸 (九州国際センター) Primary Health Care	1	IEC	7/7	1	家野・徳村
JOCV C/P Mr. Abokon	6	DTP	7/13 (午前)、7/15 (午前)、7/16、7/19、7/21	4	家野・徳村
サンゴ礁保全	7	DTP	9/29、10/12、10/13、11/**～11/** (要追加)	3	浦本・徳村
持続可能なマングローブ生態系管理技術	2	IEC	10/4、10/5	2	前川・徳村
インドネシア生物多様性保全計画 (II) C/P Mr. Widada Jr. Ms. Endang Wahyuningshi	2	IEC		2	前川・徳村
小計	29名			10.5日	

平成 8 年以降の視聴覚研修コース以外の研修支援実績

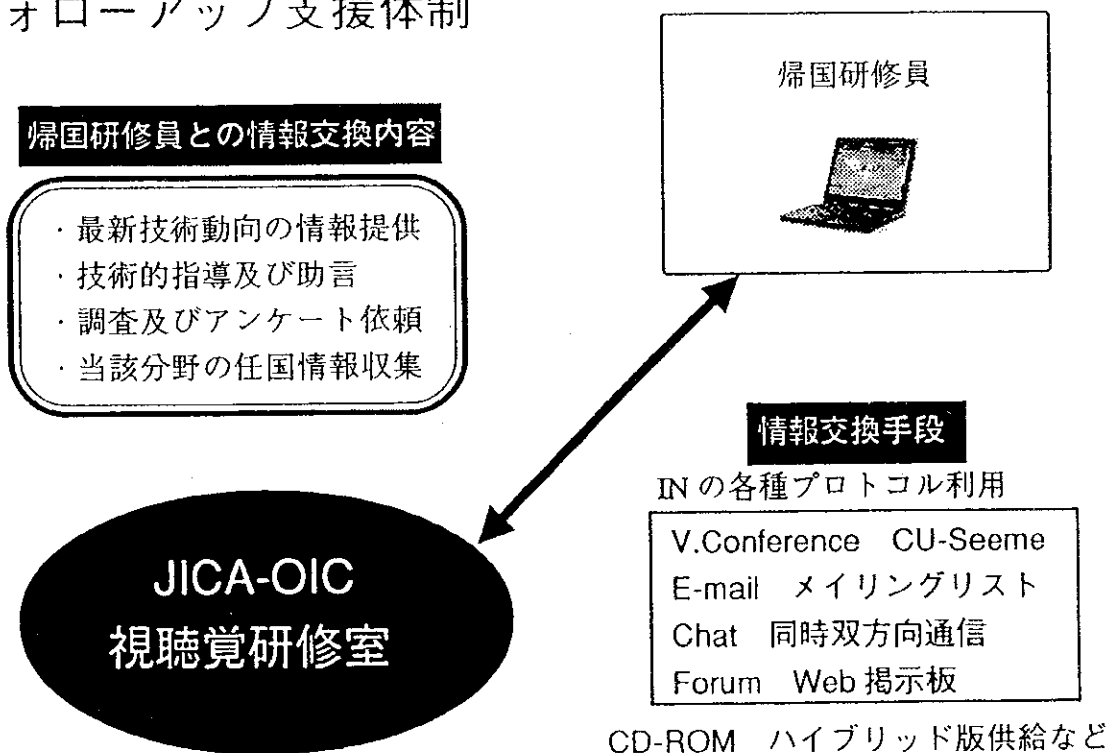
平成 12 年度 (FY00)		13	IEC	5月24日	0.5	前川・山王丸
公衆衛生行政管理者コース (国立公衆衛生院)		1	メディア教材各種	5月26日	1	前川
ネパール自然災害軽減支援プロジェクト		7	DTP/DTPR	6月27.30日、7月3～5日	5	徳村・浦本
サンゴ礁保全		7	DTP	9/6～8日、11月1～9日	10	浦本・徳村
持続可能なマングローブ生態系管理技術		11	インターネット概要	1月15日～17日	3	宮城
SPF 諸国廃棄物管理コース						
	合計	114 名			149.5 日	

#### 4-3 インターネットを利用した帰国研修員支援

視聴覚研修室では、1995年からインターネットを通じた帰国研修生との交流を実施している。現在、約100名余りの帰国研修員がe-mailを利用したAlumni Mailing List (AVTメイリングリスト) やwwwを利用した掲示板 (AVTフォーラム) に参加し活発な交流が行われている。インターネット上の対話やディスカッションでは、寄せられた意見を集約したり、要約内容を参加者に送りディスカッションの議論を整理し方向を示すなど、モデレータ・コーディネーターとしての役割が重要になる事から、可能な範囲で支援を続けていきたい。

同ネットワーク交流は、研修員側から直接、現地ニーズに沿った研修内容の提案や、現地の抱える諸問題等が討議されるなど、視聴覚室のコース改編や、各種ニーズ調査等の際、十分に参考になる。更に、機材や新技術動向などに関する問い合わせも多く、帰国後のフォローアップ手段として活用されている。

#### フォローアップ支援体制



インターネットを利用した帰国研修員支援の概念

教材開発

教材名	メディア	概要	その他 (URL等)
1 Basic Shots	インターネット (WWW)	ビデオ番組制作におけるBasic Shotを紹介し、それぞれについて説明した教材。クイズあり。学習者制御の教材であるため、研修員が自分の知りたい情報を見ることができ。	http://www.cosmos.ne.jp/avt/basic_edit
2 Web Search	インターネット (WWW)	講義で使った、Web検索に関するパワーポイントプレゼンテーションのHTML版。講義時間以外でも、必要ときにプレゼンテーションを見ることができ。	http://www.cosmos.ne.jp/avt/web_search
3 Nonlinear Editing	インターネット (WWW)	講義で使った、ノンリニア編集(ビデオ編集の一技法)に関するパワーポイントプレゼンテーションのHTML版。講義時間以外でも、必要ときにプレゼンテーションを見ることができ。	http://www.oic.jica.go.jp/wwwavt/nleppt
4 Internet Test and Quizes	インターネット (WWW, e-mail)	WWWの科目で実施した、Web上のテストやクイズ。結果は自動集計され、即時に受講者に結果が知らされる他、担当講師にはE-mailで届けられる。集団講義にも自習にも使用可能。	http://www.cosmos.ne.jp/avt/quiz/www-post-test.html、 http://www.cosmos.ne.jp/avt/quiz/webquiz.html
5 One Fine Day (研修員作品)	ビデオ (Betacam)	ビデオ番組制作の過程を、ある研修員グループの制作を追いながら紹介する番組。AVTでのビデオ制作のまま紹介し、また主人公が実際の研修員であるため、とくに制作初心者に対するビデオ制作への導入に適している。	98年度教材制作
6 One Fine Day: Behind the Scenes	インターネット (WWW, RealAudio)	上記の番組の企画書と台本をweb化したもの。実際のナレーションを聞くことができる。企画書と台本の書き方について学ぶことができる。	http://www.cosmos.ne.jp/avt/behind 98年度教材制作
7 Light and Color (研作)	CD-ROM、 インターネット (WWW, RealVideo)	ビデオのカラーバランスの取り方や、色温度のコンセプトを説明した教材。研修員が制作したビデオ番組を、i-Presentationによってデジタル変換。ビデオ番組にインテックスがついているため、番組視聴中に必要な箇所ですぐにアクセスできる。	(99年度教材制作デモ版)
8 Photography: Basic Lighting (研作)	CD-ROM、 インターネット (WWW, RealVideo)	写真における人物撮影のための基本的な照明の方法について説明した教材。研修員が制作したビデオ番組を、i-Presentationによってデジタル変換。ビデオ番組にインテックスがついているため、番組視聴中に必要な箇所ですぐにアクセスできる。	99年度教材制作



9	Ryukyu Mura	インターネット (Real Video)	「琉球村」を紹介するビデオ番組。研修員制作のビデオ番組をストリーミングビデオの形式に変換し、OIC内のWWWサーバよりインターネット上に動画を配信。様々な環境に対応するため、動画圧縮率により数バージョンあり。	http://www.oic-jica.go.jp/www/vavt/streaming/videotest.html
10	Yonaha Chotai -Life in Okinawa	インターネット (Real Video)	画家・陶芸家、与那覇朝大氏のドキュメンタリー番組。研修員制作のビデオ番組をストリーミングビデオに変換しインターネット上で配信。	動作確認済み。OICサーバ上にて公開予定。
11	Okinawa Soba	インターネット (Real Video)	沖縄そばの歴史と製造行程を紹介する番組。研修員制作のビデオ番組をストリーミングビデオに変換しインターネット上で配信。	動作確認済み。OICサーバ上にて公開予定。
12	Life in the Mangroves	インターネット (Real Video)	沖縄本島のマングローブに生息する動物達のドキュメンタリー番組。研修員制作のビデオ番組をストリーミングビデオに変換し、インターネット上で配信。	動作確認済み。OICサーバ上にて公開予定。
13	Rhythms of Heart	インターネット (Real Video)	沖縄の文化を踊りと音楽を通じて紹介した番組。研修員制作のビデオ番組をストリーミングビデオに変換しインターネット上で配信。	動作確認済み。OICサーバ上にて公開予定。
14	AVT-L	インターネット (メーリング・リスト)	現在研修に参加中の研修員とインスタクターが、メールを活用して情報交換や議論をするためのメーリングリスト。	avt-l@oic-jica.go.jp、 avtcafe@oic-jica.go.jp

帰国研修員支援

教材名	メディア	概要	その他 (URL等)
1 AVT Forums	インターネット (WWW)	Web上の電子掲示板を使ってディスカッションをするためのサイト。研修で扱うトピック毎にフォーラムを設定し、全11フォーラムがある。帰国研修員を対象としているが、現在参加中の研修員も参加可能である。	<a href="http://www.cosmos.ne.jp/avt/forum.html">http://www.cosmos.ne.jp/avt/forum.html</a>
2 AVT Club Chat Rooms	インターネット (WWW)	Web上で研修員とインストラクターがリアルタイムでディスカッションをするためのサイト。フォーラムで議論の高まったトピックや研修員からのリクエストに合わせて、チャットを開催している。	<a href="http://www.sgroups.com/group/avtcafe/info.html">http://www.sgroups.com/group/avtcafe/info.html</a> 、 <a href="http://anexa.com/avt">http://anexa.com/avt</a>
3 Alumni List	インターネット (メーリンググ・リスト)	帰国研修員とインストラクターがメールを活用し、情報交換や議論をするためのリスト。ニューズレターも定期的にAVTより配信している。	<a href="mailto:almyni@oic.jica.go.jp">almyni@oic.jica.go.jp</a>

# Production Proposal of "ONE FINE DAY: Behind the Scenes"

[ PURPOSE | OBJECTIVES | TARGET AUDIENCE | UTILIZATION CONTEXT | REFERENCES ]

[Click here to see the AV script of "ONE FINE DAY: Behind the Scenes"](#)

## PURPOSE:

The program aims to show the learners how a video program is created - so that the learners will become familiar with necessary procedures in making of a video program.

[go to the top of this page](#)

## OBJECTIVES:

1. The learners should be able to describe the procedures involved in making of a video program listed on the right.
  - o They should be able to list the nine major steps in the right order.
  - o Learners should be able to categorize the nine steps into Pre-production, Production and Post-Production.
2. The learners will be motivated to work as a team and prepare positive attitude for their own production.

[go to the top of this page](#)

## TARGET AUDIENCE:

Primary target

Participants of AVT courses

Secondary target

1. Beginners in video production.
2. Educational developer who has little experience in video production

## 9 Major Steps of Video Production

	1. Planning
	2. Location Scouting
	3. Shooting
Editing	4. Off-Line Editing
	5. On-Line Editing
Audio Post-Production	6. Narration Recording
	7. Sound Recording
	8. Mix-Down
	9. Evaluation

## UTILIZATION CONTEXT:

1. The learner should view the program "One Fine Day" prior to watching this program.
2. The learner should study the AV script and go over the different stages of production.

[go to the top of this page](#)

## REFERENCES:

### Books:

Thompson, R. (1993). *Grammar of the Edit*. Focal Press.

Katz, S. D. (1991). *Film Directing Shot by Shot: Visualizing from Concept to Screen*. Michael-Wiese Productions and Focal Press.

Kemp, J. E. and Smellie, D. C. (1994). *Planning Producing and Using Instructional Technologies*. Harper Collins College Publishers.

### On the Web:


Basic Shots in Editing -  
[http://www.cosmos.ne.jp/~avt/basic\\_edit/](http://www.cosmos.ne.jp/~avt/basic_edit/)

AV Script of One Fine Day: Behind the Scenes - <http://www.cosmos.ne.jp/~avt/script.pdf>

[go to the top of this page](#)

# ONE FINE DAY: Behind the Scenes

## Procedures of Making a Video Program

[CLICK HERE FOR NARRATION](#) 

(Music, upbeat and lively)




We created the program One Fine Day as part of our training in the Media Production Course. The objective of the program was to show how to make good use of the OIC facilities and reduce the anxiety of the new participants.




It took us 10 days to make our program and there were many steps involved. Let us show you how we created this program- so that you will have better idea of what the necessary procedures are in making of a video program.

 PREVIOUS

 GO TO PROPOSAL

NEXT 

# PRE-PRODUCTION

CLICK HERE FOR NARRATION 

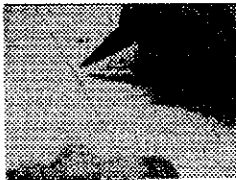
## 1. PLANNING



The first step is planning. Here, you must define your objectives clearly and analyze your target audience. There were four of us in our group and we decided to show a day (in life) in OIC through the eyes of a participant.




We selected Ahmad, a member of our group, to play the role of the main character.



We also created a content outline, storyboard and schedule and decided where to shoot. At this stage, we agreed to respect each other's opinions at all times. If we disagreed on something, we would try several different options and ideas, then chose the best one later on the screen.

 PREVIOUS

 GO TO PROPOSAL

NEXT 

CLICK HERE FOR NARRATION



## 2. LOCATION SCOUTING



There were many details to be discussed in preparation for the shooting. We visited all the places where the shooting was going to take place.



First we went to take a look at the shokudou. To find out whether we can actually realize the plan on paper, it is best to observe the location. We went through a check list: Is there enough space for the character to move around? Where are you going to put the camera? Is there enough light? Does the shooting require co-operation of OIC staff?




Then we went to Ahmad's room where the first scene was going to be shot. Even if you are shooting a very simple action, when we started to analyze each movement, we realized that the action had to be broken down into many different steps - into different shots.

◀ PREVIOUS

**P** GO TO  
PROPOSAL

NEXT ▶

## PRODUCTION

CLICK HERE FOR NARRATION 

### 3. SHOOTING

(Music; up beat lively)



Shooting was the most enjoyable of all the procedures. We were excited and felt that we were now part of the glamorous TV and movie industry - like being in Hollywood. Production is a team effort and each one of us had to play a different role - role of an actor, camera operator, sound recordist and director.



Selection of the camera position is very important in making a good program so camera operator must find the best position and prepare for shooting. If there are any camera movements, rehearsing until you can make the movement smoothly is important, before actually recording....Or else you will end up repeating the same shots over and over again - losing a lot of time.



Director's job is to watch the monitor and check whether or not the desired shot was achieved. If not, then he or she must explain to the staff what went wrong and more importantly how it can be improved. Director must also give directions to the actors. We were prepared to go anywhere to get the shot that we needed.

(Music up beat lively)

◀ PREVIOUS

 GO TO PROPOSAL

NEXT ▶



## POST-PRODUCTION

CLICK HERE FOR NARRATION



When the shooting was done, we went into post production. Post production is basically divided into two basic procedures - a) editing and b) audio post production.

### 4. OFF-LINE EDITING



Editing is further divided into two stages; off-line and on-line. Off line editing is the rough cut (or the preliminary editing) and on-line editing is the final cut.




Off-line editing is where you first try to put together the material which you have shot to create scenes and sequences. Here you actually test to find out whether you can construct the program according to your plan and storyboard . Keeping continuity and transition in space and time must also be considered. We did our rough cut on non-linear editing system. We found that it was quite easy to change (or move) the shots around and try different ideas using this new technology.

◀ PREVIOUS

**P** GO TO PROPOSAL


NEXT ▶

CLICK HERE FOR NARRATION 


## 5. ON-LINE EDITING




After finishing the off-line editing, we started our on-line editing (the final edit) on the BetaCam A/B roll editing suite. Here we also did our effects such as wipes, dissolves and fades. Titles and super-imposed texts were also added at this stage. We had printed out the data from our off-line edit. This data is called the Edit Decision List (or EDL) and based on this EDL, we did our final editing.

 PREVIOUS

 GO TO  
PROPOSAL

NEXT 

CLICK HERE FOR NARRATION 

## 6. NARRATION RECORDING



After we had completed our editing, it was now time to move onto audio post production. We wrote the narration script and timed it so that it will match with the video. Then went to the recording studio to record the narration.




With narration, you breath life into your program so the emotional content is quite important. It sets the mood and tone for the entire program.

▲ PREVIOUS

 GO TO  
PROPOSAL

NEXT ►

CLICK HERE FOR NARRATION 


## 7. MUSIC RECORDING




After recording the narration, we selected music to go with our program. The music in the CD library was especially created for production use and it comes in various lengths, moods, tempo and styles.




Selecting the appropriate music for each sequence was not an easy task. Each one of us had different ideas and had different tastes in music so it was difficult to agree on some of the selections. We tried several different ideas and selected what seemed to work best with the scene. After recording the music, we then selected and recorded the sound effects.

 PREVIOUS

 GO TO  
PROPOSAL

NEXT 

CLICK HERE FOR NARRATION 


## 8. MIX-DOWN




When all the necessary sounds were recorded, the final step is to mix all the sounds - keeping the right balance between music, narration and ambient sound. When this was done, we had finally completed our program and 10 days of hard work were now over.

 PREVIOUS

 GO TO PROPOSAL

NEXT 

CLICK HERE FOR NARRATION 

## 9. EVALUATION

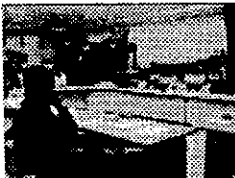


We presented our program in the class. Then, it was evaluated by the instructors and the fellow participants. The most important thing was that we had learned so much about the production procedures and how to work as a team.



We gave each member a chance to experience every role by taking turns - playing the role of a director, actor, camera man and so on.

(Music: upbeat and lively)



We hope that seeing us go through the whole procedure will help you in your production. We wish you good luck with your program!

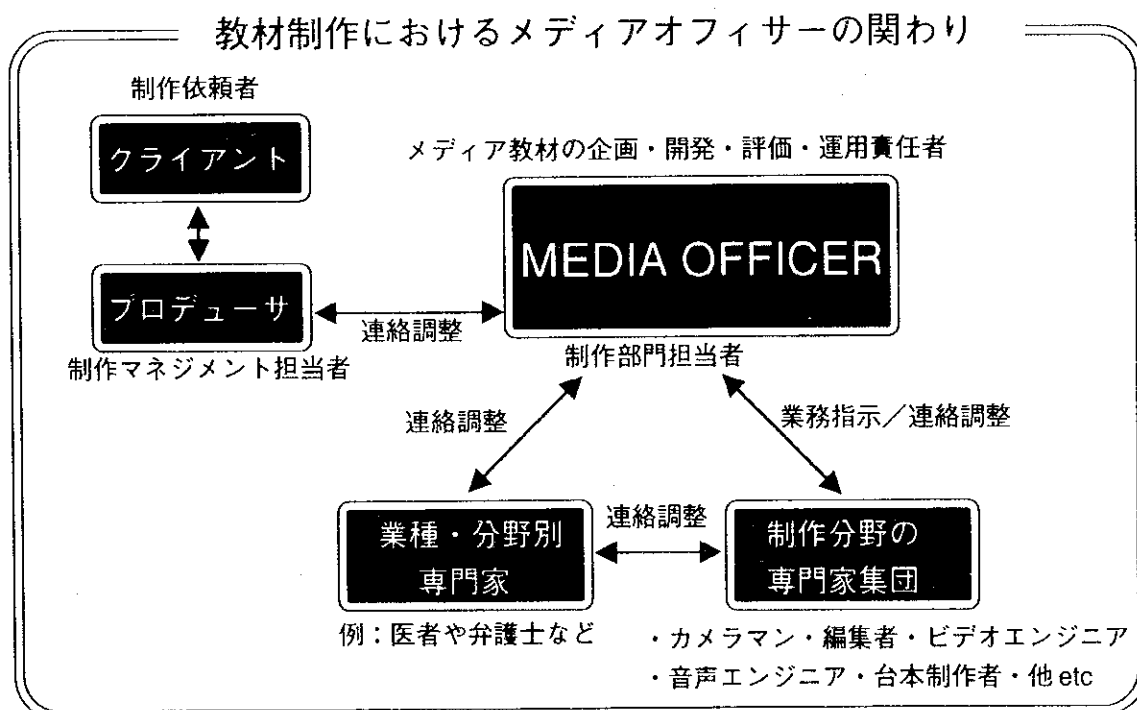
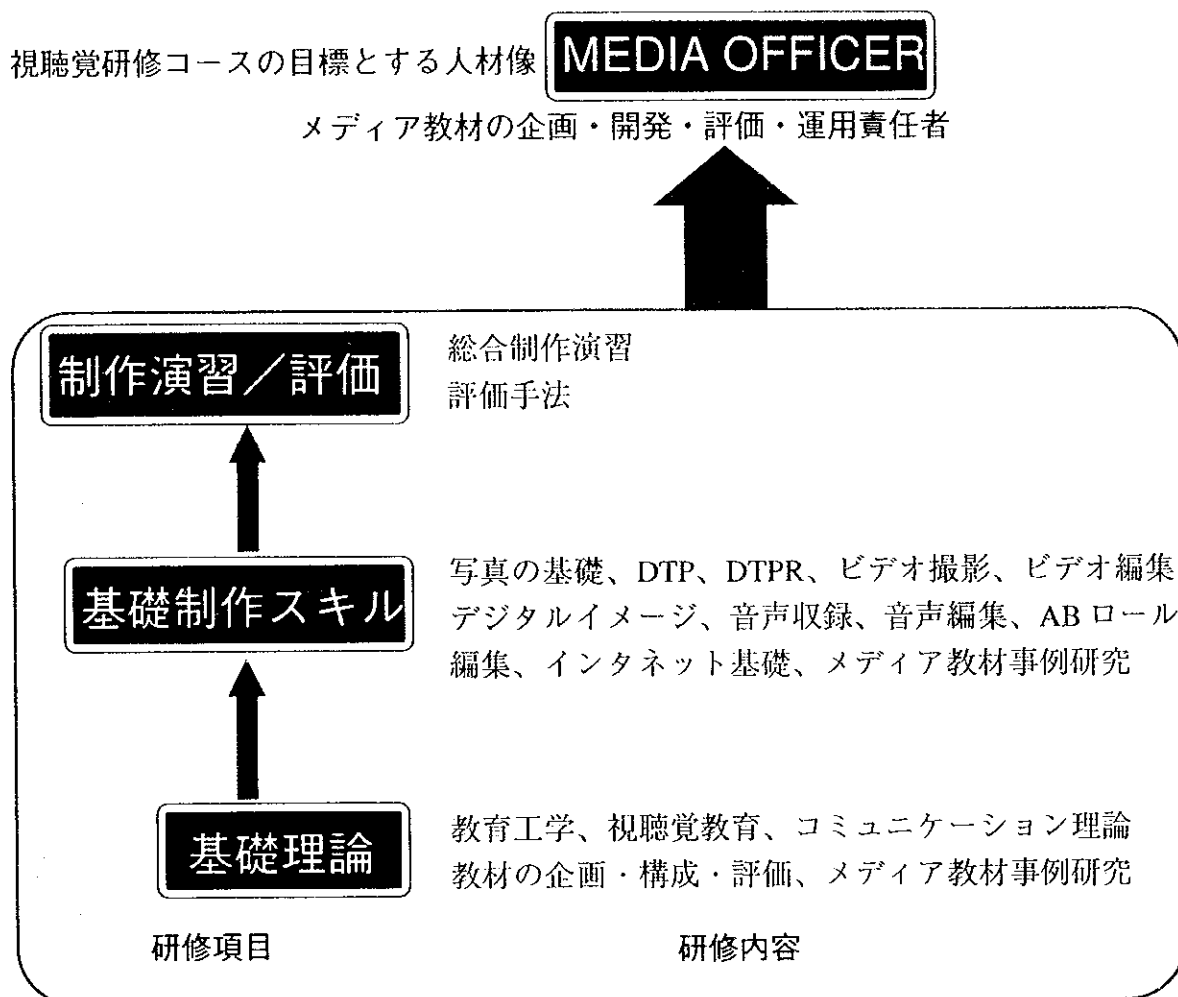
(FADE TO BLACK)

◀ PREVIOUS

 GO TO PROPOSAL

NEXT ▶

4-2 視聴覚研修コースの研修体系と目標人材像（コースガイドライン）







視聴覚コースの変遷

西暦	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
和暦	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
コースの変遷	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>視聴覚技術 (一般)</p> <p>視聴覚技術 (専修)</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>サウンドストライド制作</p> <p>ビデオ制作</p> <p>視聴覚技術</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>視聴覚メディア制作 (A)</p> <p>ビデオ制作</p> <p>視聴覚メディア制作 (B)</p> </div> </div>																				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"></div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>マルチメディア教材制作(A)</p> <p>デジタルビデオ制作</p> <p>マルチメディア教材制作(B)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>教員、講師のためのインターネット専修</p> </div> </div>																				
講師	<p>内務主任1名 企画主任1名</p> <p>長期講師2名 指導者4名 指導者6名</p> <p>短期講師1名 長期講師2名 企画主任1名</p> <p>アシスタント1名</p> <p style="text-align: right;">見直し</p>																				

# Audio Visual Technology Program

## *AVT Courses*

- MEDIA PRODUCTION
- VIDEO PRODUCTION
- Multi MEDIA PRODUCTION 99

---

[ [Forums](#) | [Participants' Web Pages](#) | [On-line Material](#) | [AVT Staff](#) | [Links](#) ]

Advanced Search

# **MEDIA PRODUCTION**

(Production of Audio Visual Communications Media A or B)

---

## **COURSE CONTENTS**

### **● Theory**

- Basic Concepts of Audiovisual Media
- Case Study for Project Management
- Planning, Designing, and Evaluating AV Media
- Introducing the Internet as New Media

### **● Basic Production Skills**

- Photography and Sound Slide Production
- Audio and Video Production
- Desk Top Publishing (DTP)
- Desk Top Presentation (DTPR)
- Web Page Production

### **● Field Trips**

- Tokyo
- Kyoto
- Osaka

# MEDIA PRODUCTION

## THEORY

---

### ● Concepts of Audiovisual Media

Historical background on media and technology, communication process, and how media research is utilized in the production of instructional and training materials



### ● Case Study for Project Management

Project development and management and the role of media; project simulation and discussions



Conducted by Dr. Kubota of Kansai University

### ● Planning, Designing, and Evaluating AV Media

Audience Analysis, Planning and Designing, Storyboarding, Script-writing, and Evaluation of Audiovisual Media



---

## Introducing the Internet as New Media

Key concepts, functions and services of the Internet



---

[Purposes & Objectives | Contents | Theory | Skills | Field Trips ]

## PRODUCTION SKILLS

### Photography

Composition, Lighting, Operation of 35mm SLR Camera, Shooting practices



### Video Production

Camera operation, audio recording, operation of editing controller, sound editing, grammar of edit, and production exercises



### DTP (Desk Top Publishing)

Word processing basics; typing and editing texts; graphics using SuperPaint; bitmapped painting and object oriented painting, Production of printed instructional materials using PageMaker; and Introduction to digital image.



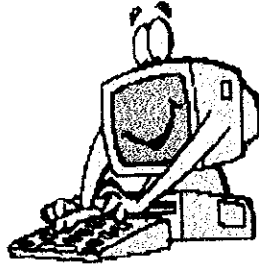
Image produced by Robert from the Philippines

Click here to view a field trip report on **National Museum of Ethnology** produced by a participant using PageMaker.

---

## ● **DTPR (Desk Top Presentation)**

Presentation, incorporating text, graphics and digital images into computer based presentation.



## ● **World Wide Web Page Production**

Production of Web pages using a web authoring software. Demonstration of the FTP uploading procedure



Click below to view Web pages created by previous participants.

[97 Media Production B](#)

[97 Media Production A](#)

[96 Media Production B](#)

---

[ [Purposes & Objectives](#) | [Contents](#) | [Theory](#) | [Skills](#) | [Field Trips](#) ]

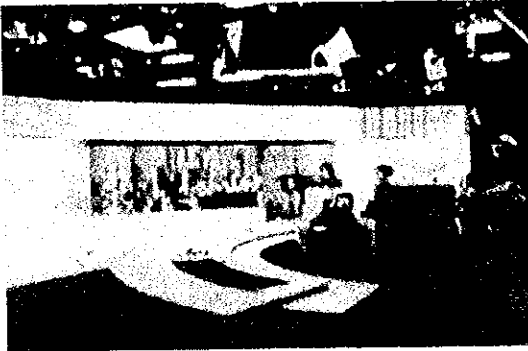


## FIELD TRIP

---

### ● TOKYO

Exposure to latest trends in audiovisual communication. Visits to SONY Media World, NTT Communication Center, InterCommunication Center and NHK (Largest Broadcasting Cooperation in Japan).



One of the many studios in NHK

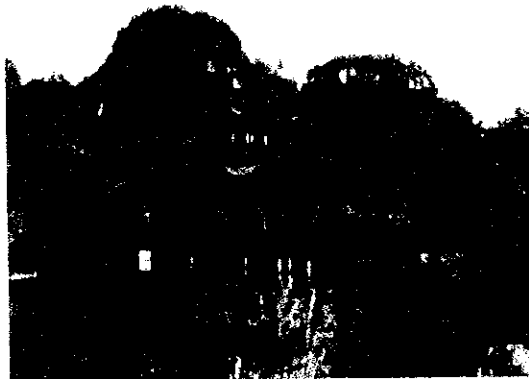


SONY Media World

---

### ● KYOTO (the ancient capital)

Visits to temples and other historical places



### ● OSAKA

You will visit National Museum of Ethnology and Kansai University Department of Informatics.

---

## Participants' Field Trip Reports



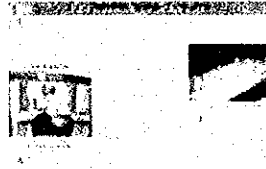
participants (in PDF).

---

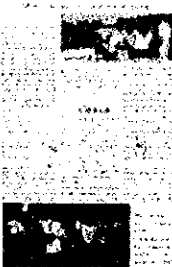
REPORT COVER PAGE



Report created by  
Amargit from Panama.  
Focuses on National  
Museum of Ethnology



Report created by  
Celik from Turkey



Report created by  
Lloyd from Suriname



Report created by  
Marion from Philippines

---

*To view this report, Acrobat Reader is needed.  
It is in PDF file format (file size:500k).*

Download  
Read

*Download the latest to view PDFs*

---

[ [Purposes & Objectives](#) | [Contents](#) | [Theory](#) | [Skills](#) | [Field Trips](#) | [Home](#) ]

#### 4-4 研修設備及び資材

視聴覚研修室では、1985年の視聴覚技術コース開設以来、技術的動向や研修ニーズの変化に伴い、フォローアップ及びニーズ調査を実施し、コース体系の見直しやカリキュラムの改善を図ってきた。

近年の視聴覚メディアを取り巻くハード・ソフト面での技術革新は顕著で、特に、PCベースによる教材制作環境の進歩は目覚ましい。従来のアナログ系ビデオ制作システムは、その殆どがPCベースのデジタルシステムに移行した。更に、PCや周辺機器を活用することで、動画や音声、静止画像やテキストなどの加工処理が容易になり、個人レベルでのマルチメディア教材制作が可能になった。

また、PCネットワーク技術の進歩によってデータの共有化が進み、更にインターネットは途上国でも徐々に普及する傾向にあり、今後は、インターネットを有効に活用した視聴覚研修コース運営の可能性も検討されている。

昨年度、第4回帰国研修員フォローアップ調査と平行して「視聴覚研修コース見直しに係るアンケート調査」を在外事務所を通じ約300の機関に対し実施した。その結果、4月18日現在で28カ国72名から回答を得ている。詳細は調査報告書の作成が待たれるが、回答内容によると、殆どのメディア制作機関がPCベースの教材制作システムを導入している、或いは導入を予定しているということである。具体的には、DTPによるテキスト教材の作成とDTPRによるプレゼンや教材の制作で、機関によっては、視聴覚研修室で使用している機材よりも高性能な機材が国際援助機関や先進国援助機関によって供与されている。

ビデオ教材制作の分野についても、PCベースによるノンリニアデジタル編集システムが、その機関を中心に導入されており、将来的に導入予定であるという回答が数多い。ノンリニアビデオ制作システムは、フィリピンやチュニジア、象牙海岸やトルコ等のJICAプロジェクトに導入され日常的に運用されており、無償援助や文化無償等によっても導入が進んでいると推測される。現在のところアフリカ諸国に関しては、インターネットの利用率が低いものの、回答を寄せた他の国の殆どの機関が、メールやWWWを利用している、或いは予定していると答えている。

メディア制作機材のデジタル化とPCやインターネットの普及と利用によって、

国内外の教材制作のハード／ソフト環境に変化をもたらした。平成6年に行われたコース体系の見直しから6年が過ぎ、OIC視聴覚技術研修では、メディア教材制作分野を取り巻く新技術の動向に注目しながら、老朽化した機材の更新を含め対処する必要がある。

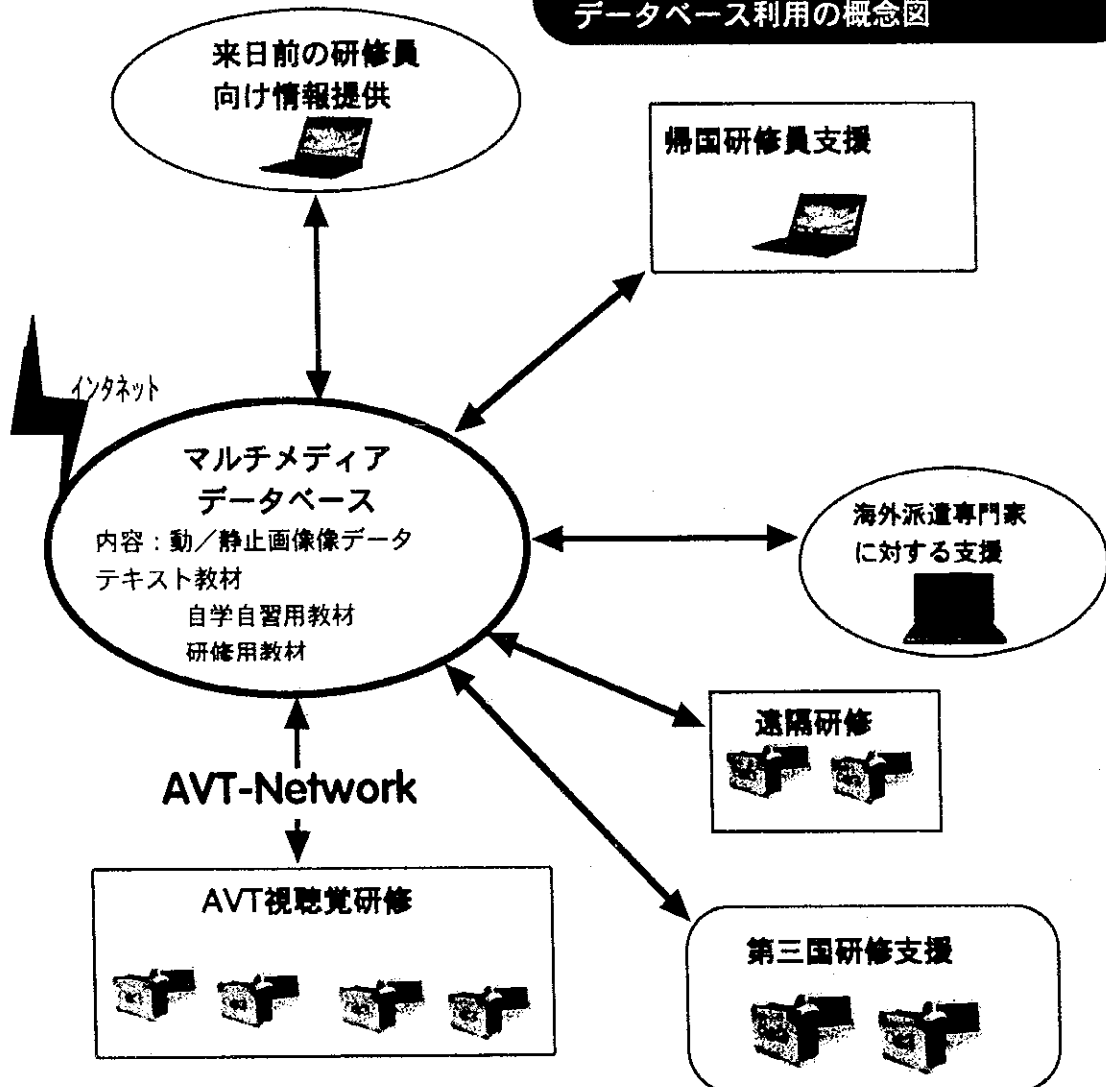
平成12年度新規機材導入概要

	主な現有機材	主な更新／新規導入機材	機材更新で期待される成果
ビデオ制作関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BetacamSP撮影関連機材 (6セット) (カメラ、バッテリー、各種三脚、撮影用モニター、AC/DC照明機器、無線／有線マイク、オーディオミキサー、ミキサー、マイクアーム、各種ハブケーブル、撮影用ケーブル、他)</li> <li>・7チャンネルコンボネットBetacam編集システム (6セット) (VTR、編集機、ビデオリッパ、オーディオリッパ、ビデオモニター、特殊映像効果装置、波形モニター、ソフトウェアシステム、基準信号発生器、音声編集用ATR、CDプレーヤー、DAT、他)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVフォーマット対応編集システム (6セット) (専用マシン、専用ソフト、効果用ソフト、モニターハードディスク、VTR込み)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編集データ／資料映像のデータベース構築</li> <li>・システムのリソース共有によるリアルタイムレコーディング</li> <li>・個人単位の教材制作</li> <li>・ネットワークによるデータ及びファイル共有</li> <li>・教材のネット配信</li> <li>・編集作業の効率化</li> <li>・システムソフト及び信号位相調整不要</li> <li>・維持管理、メンテナンスの簡素化</li> </ul>
マルチメディア制作関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Machintosh PC及び周辺機器 (13セット) (PPC8100/100、モニター、フィルムスキャナー、他)</li> <li>・Mac用ソフト(DTP/R、他)ソフト×13セット (フォント、イラストレーター、ページメーカー、MSワイルド、インターネットワイルド、エドワード、スパーバード、ソフト、パースペクティブ、他)</li> <li>・カラープリンター1台、白黒プリンター2台</li> <li>・民生用ビデオカメラ6台</li> <li>・デジタルビデオカメラ6台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Windows PC及び周辺機器 (13セット)</li> <li>・Windows用ソフトウェアリソース類 (ソフトウェア教材制作7種類×13セット)</li> <li>・デジタルビデオカメラ (13セット)</li> <li>・一眼デジタルビデオカメラ (13セット)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web/CDデータベースによるインタラクティブ教材制作</li> <li>・動画／静止画教材制作、データベース構築</li> <li>・個人単位の教材制作</li> <li>・ネットワークによるデータ及びファイル共有</li> <li>・ネットワークを通じた各端末への教材配信</li> <li>・ネットワークを通じた研修講義の実践</li> </ul>
インターネット導入及びネットワーク環境関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10baseT環境ネットワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100baseT環境ネットワーク数設</li> <li>・100base対応スイッチングハブ</li> <li>・センターサーバー/ファイル</li> <li>・ファイル/Web/mail/ストリーミング/アプリ等各種公開/非公開用サーバー構築</li> <li>・1.5Mbps以内ネットワーク通信回線導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT支援による帰国研修員フォローアップ</li> <li>・研修員データベースの構築</li> <li>・来日前対応レクチャー教材制作</li> <li>・研修用Web教材の開発</li> <li>・分野分野の在外専門家支援</li> <li>・インターネットによる遠隔教育の実践</li> <li>・インターネットによる第三国研修支援</li> <li>・ソフトの配布／収集／分析</li> <li>・事前事後リストの配布／集計／通知</li> <li>・インターネットを利用したWeb掲示板、メーリングリスト、双方向通信によるビデオオーディオデータ、アイコン、IRC運用</li> </ul>
オーディオ制作関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7チャンネルオーディオ録音システム (ミキサー、ATR、MTR、パソコン、CDプレーヤー、DAT、他)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルオーディオ録音システム (デジタルミキサー、専用ソフト及びソフト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンテナンスの簡素化と制作の個別化</li> <li>・各種データやファイルの共有化と音声編集の効率化</li> <li>・高品位音声構築</li> </ul>

## マルチメディアデータベースによる各種業務支援モデル

来年度は、新規機材の導入やネットワークシステムの構築によって、新コース体系のもと情報技術を利用した研修が可能となる。それに伴い、機材やシステムの運用に向け必要な準備を進める方針である。具体的には、使用するコンピュータがMachintosh OSからWindows NTに変わるため、これまで利用したMachintosh OSベースの研修教材すべてをWindows NT用に再開発する必要がある。また、ネットワークシステムの構築後、オンラインによる動画や静止画、音声データやテキストファイル等、研修教材及び素材の送配信を可能にするため、マルチメディア教材ライブラリーシステムを開発し更に、インターネットシステムの導入と各種サーバーを配置することで国内研修や遠隔研修を含めあらゆるニーズに応える体制を整備する。

### インターネット技術とマルチメディアデータベース利用の概念図



#### 支援の内容

##### 来日前的研修員

- ・事前情報提供（オリエンテーション内容、コース概要紹介他）

##### AVT視聴覚研修

- ・コース教材のネットワーク配信（AVファイル、事前事後テスト他）

##### 帰国研修員

- ・情報の提供／共有（意見交換、教材／資料等）

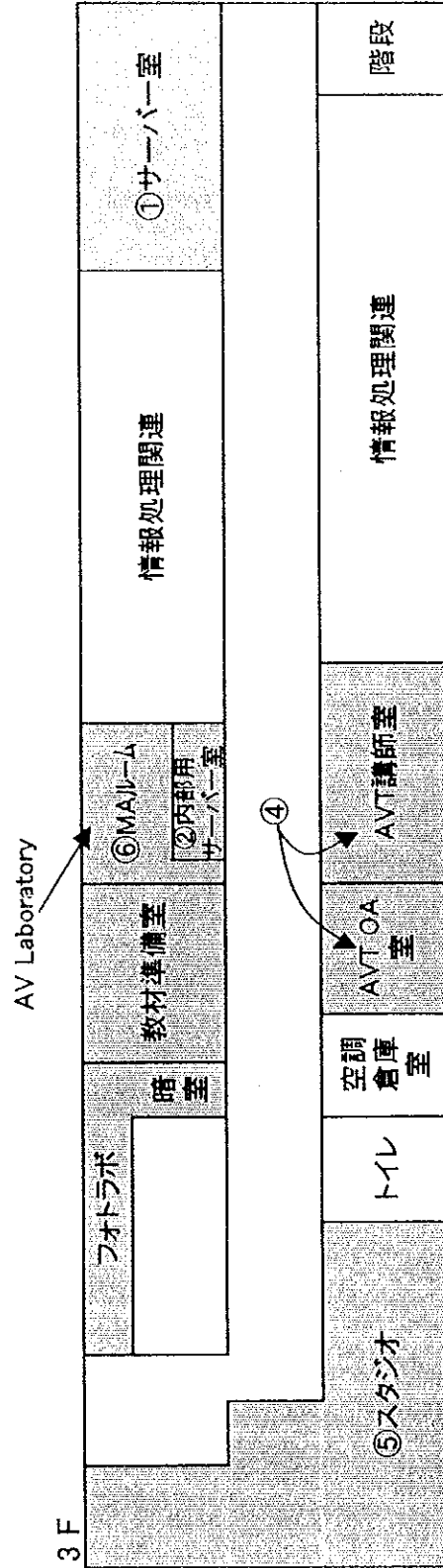
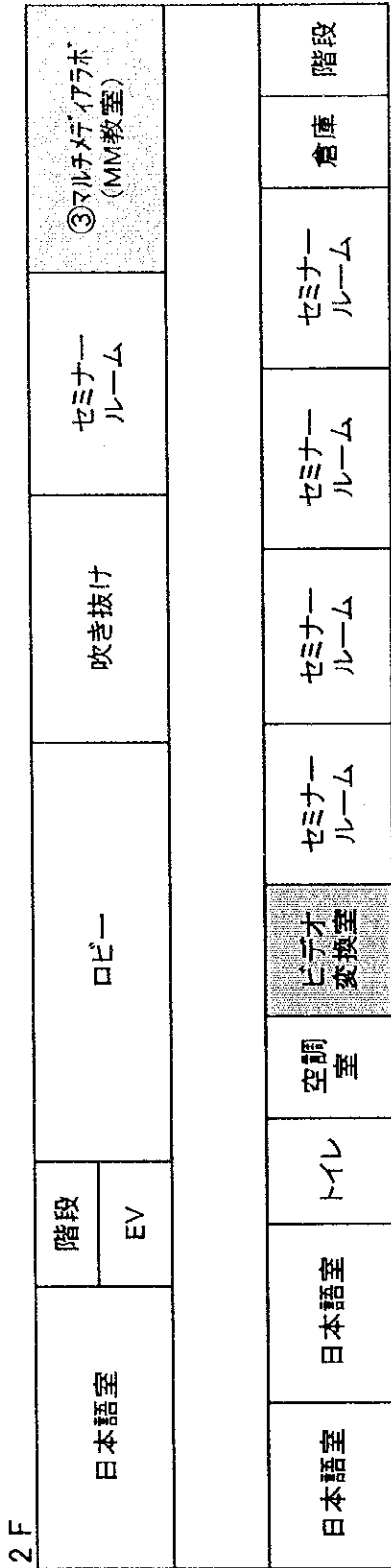
##### 派遣専門家支援

- ・情報提供（教材、機材、技術動向他）

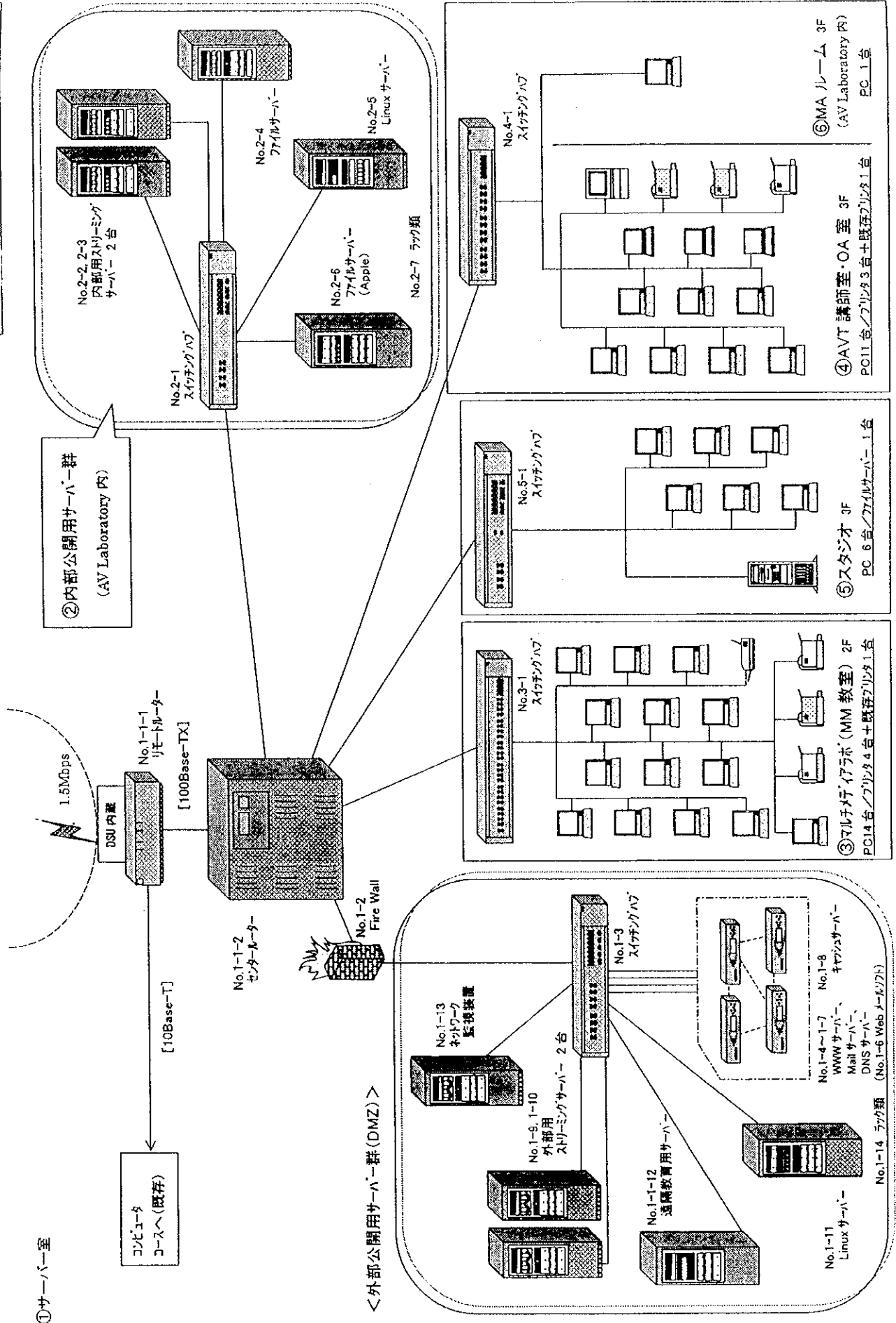
##### 第三国研修支援

- ・研修教材提供

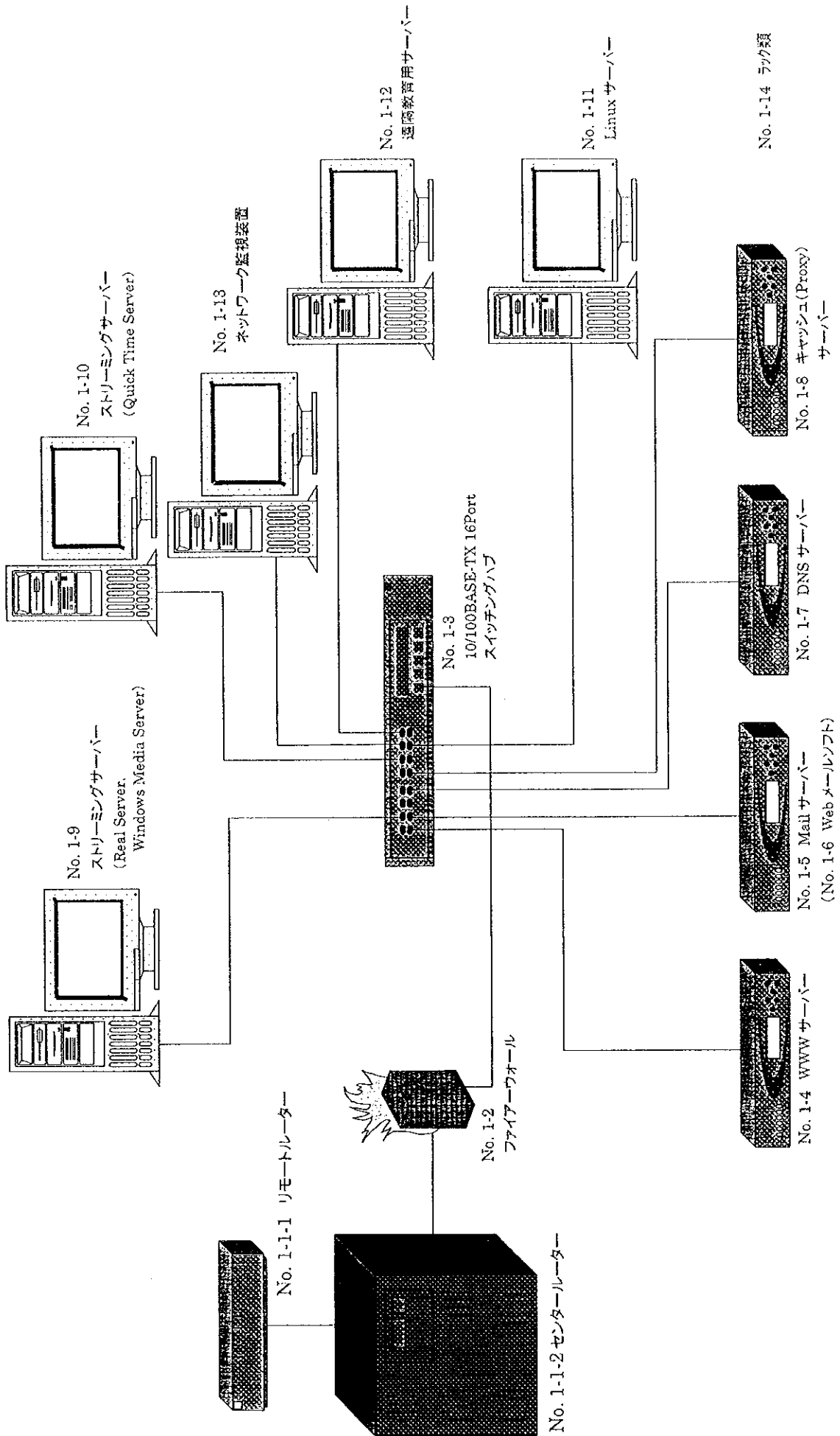
・研修機材及びネットワーク構成



注1) 本見取図はAVT関連教室の配置を示すための目安である。各教室の広さは正確な縮尺にはなっていない。  
 注2) [ ] はAVT関連教室を表している。  
 注3) 丸数字は仕様書の番号に対応している。

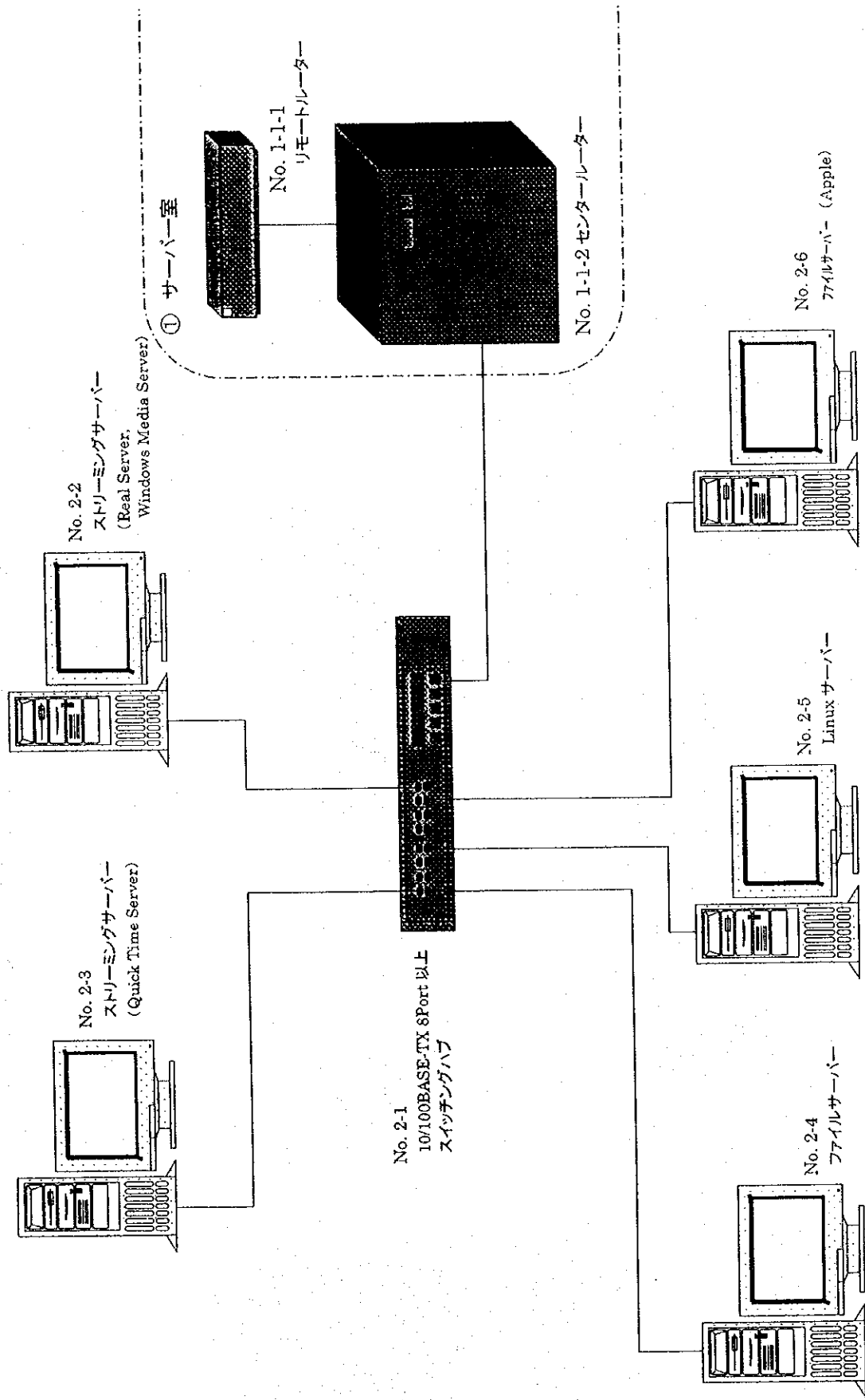


資料 2-2) ネットワーク・イメージ図  
①サーバー室

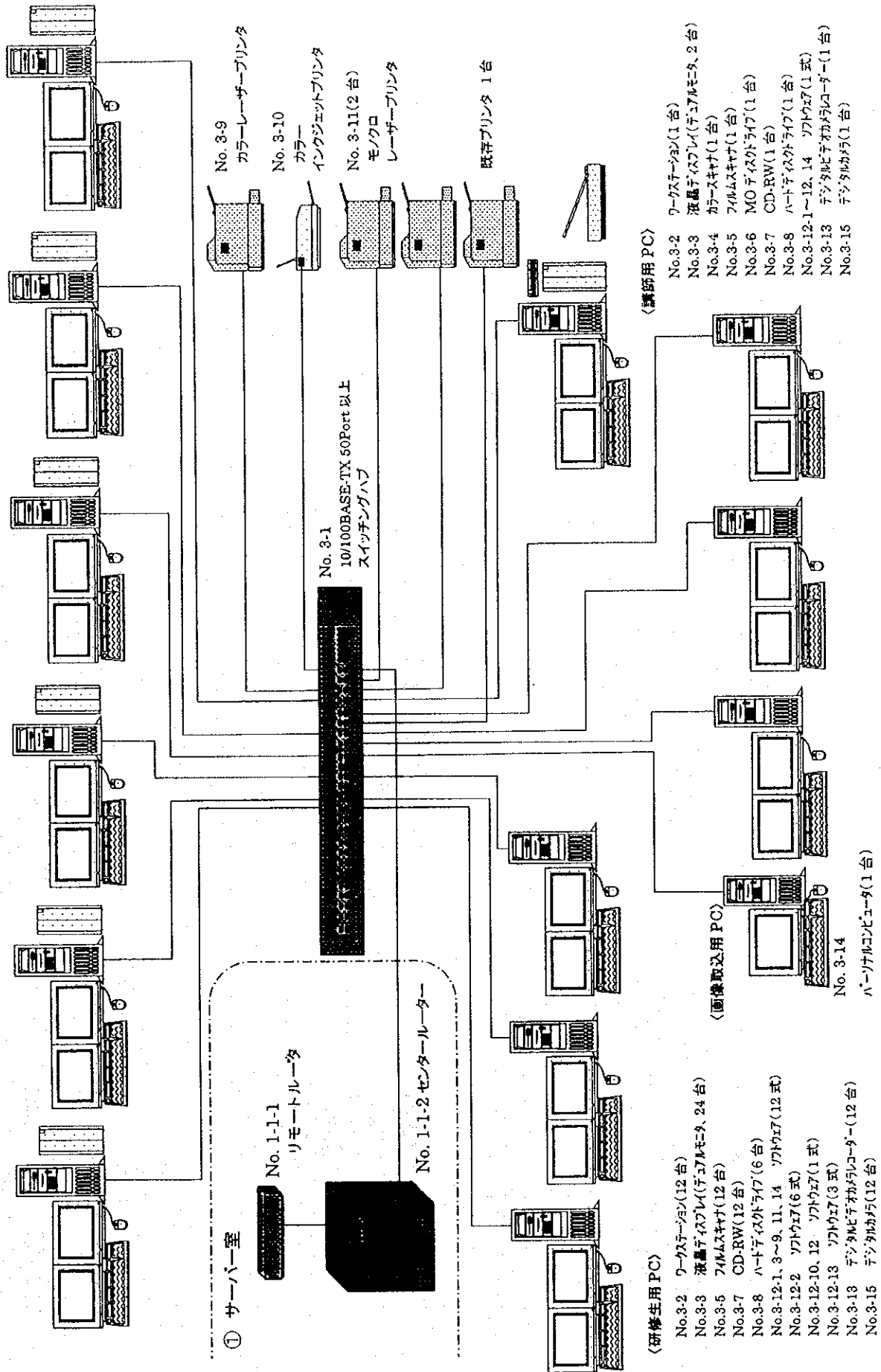




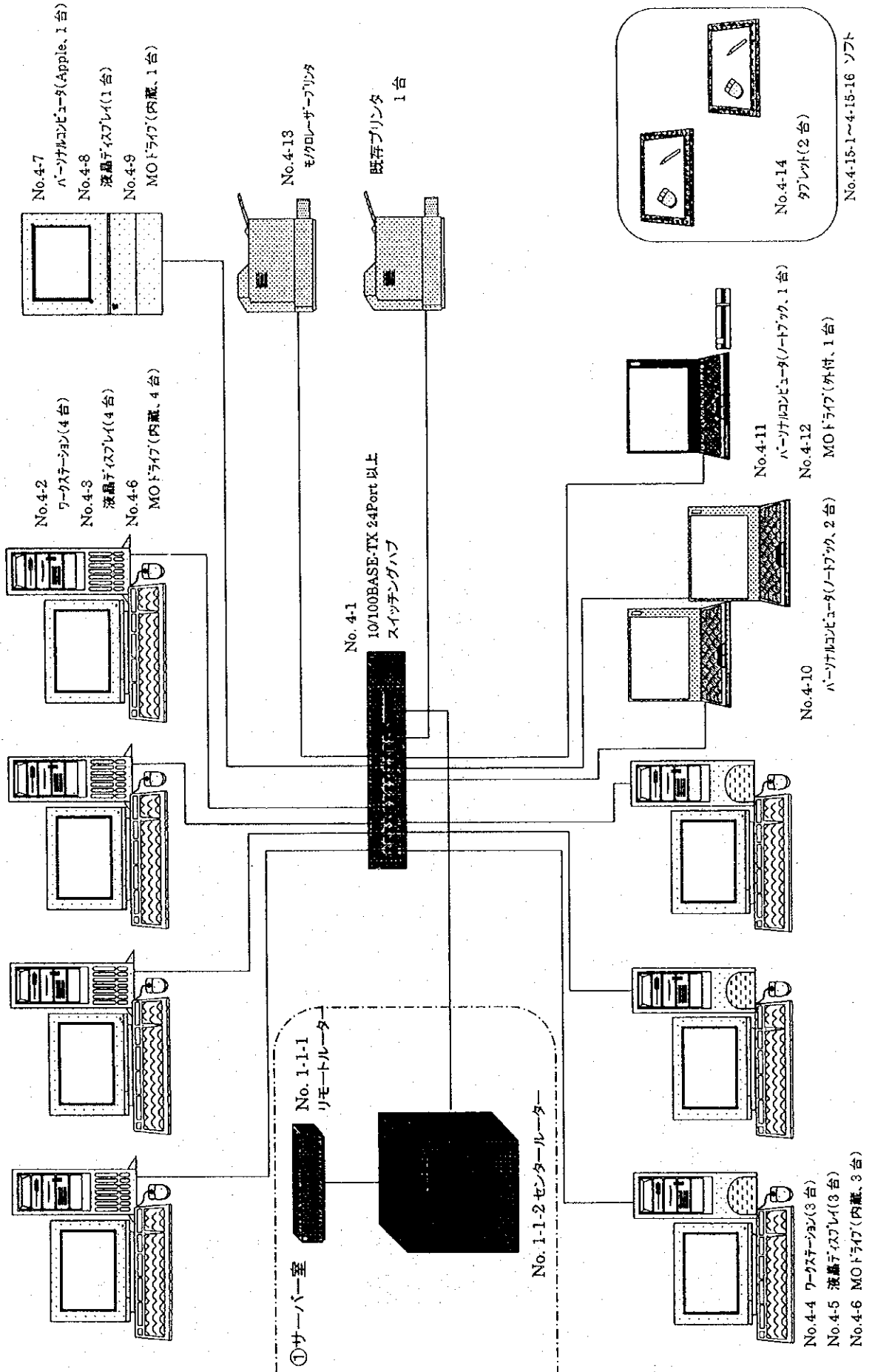
資料 2-3) ネットワーク・イメージ図  
 ②内部用サーバー室  
 (AV Laboratory 内)



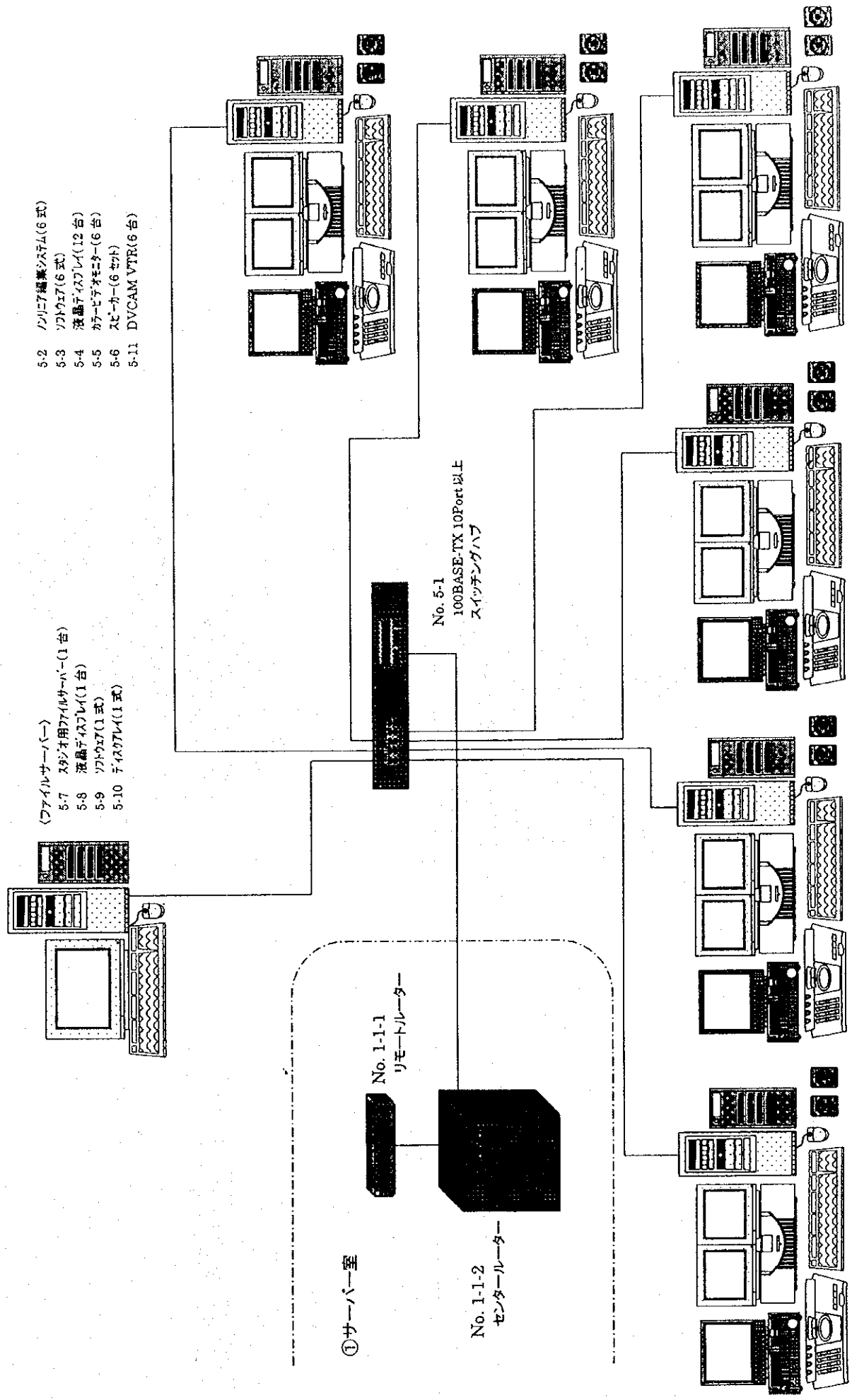
No. 2-7 ネットワーク類



資料 2-5) ネットワーク・イメージ図  
④AVT 講師室・OA 室



資料 2-6) ネットワーク・イメージ図  
⑤スタジオ



- 5-2 プリント編集システム(6式)
- 5-3 モニター(6式)
- 5-4 液晶ディスプレイ(12台)
- 5-5 カラービデオモニター(6台)
- 5-6 VCR(6台)
- 5-11 DVCAM VTR(6台)

- (ファイルサーバー)
- 5-7 スタジオ用ファイルサーバ(1台)
  - 5-8 液晶ディスプレイ(1台)
  - 5-9 モニター(1式)
  - 5-10 ディスケット(1式)

①サーバー室

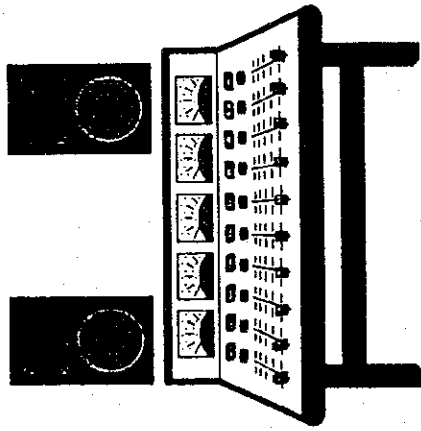
No. 1-1-1  
リモートルーター

No. 1-1-2  
センタルルーター

No. 5-1  
100BASE-TX 10Port以上  
スイッチングハブ

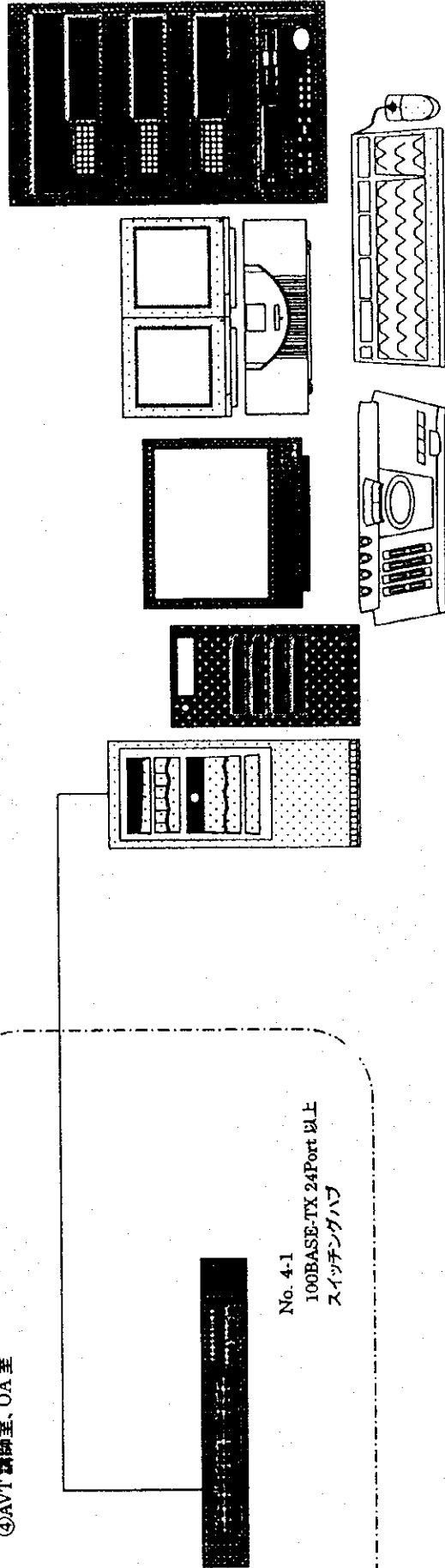
資料 2-7) ネットワーク・イメージ図  
 ⑥MA室

- 6-1 アンテナ構築システム(1式)
- 6-2 ソフトウェア(1式)
- 6-3 液晶ディスプレイ(2台)
- 6-4 カラービデオモニター(1台)
- 6-5 CDプレーヤー(1式)
- 6-6 MDレコーダー(1式)
- 6-7 DVCAM VTR(1式)
- 6-8 テレカムミキサー(1式)



④AVT 講師室、OA室

No. 4-1  
 100BASE-TX 24Port 以上  
 スイッチングハブ



## 5. 当該分野における途上国ニーズの分析・考察

### 5-1 調査団の概要

視聴覚技術研修分野見直し調査団は、「帰国研修員フォローアップチーム派遣要綱」に基づき、タイ、マレーシア及びインドネシアの技術協力窓口機関、人事院、視聴覚関連省庁、帰国研修員及びその所属先を訪問し、研修ニーズ・帰国研修員の活動状況調査、本邦研修の評価、およびサイト視察により、電気通信網の現状およびその問題点を把握し、今後の研修コースの質的向上に資することを目的として派遣された。

団員の構成、派遣期間、調査項目及び調査結果は以下のとおりである。

#### (1) 団員の構成

- ・吉田 昌生 : 総括  
国際協力事業団 国際協力専門員
- ・家野 宰輔 : 技術指導  
ニューヨーク大学名誉教授(元・視聴覚技術室主任)
- ・山王丸 浩子 : 研修効果測定  
財団法人日本国際協力センター  
視聴覚技術室インストラクタ
- ・水野 由起子 : 研修計画  
国際協力事業団 沖縄国際センター 業務課職員

#### (2) 派遣期間

平成12年4月2日～平成12年4月15日(14日間)

#### (3) 調査項目

1. 評価 (1) 研修効果の調査(帰国研修員)
2. 現状調査 (1) 視聴覚教育・技術の普及状況、技術水準、技術的問題、利用分野、市場調査(機材等)  
(2) 遠隔教育の認識状況、施設等ハード整備状況等
3. ニーズ調査 (1) 育成すべき人材、研修ニーズ(カリキュラム、研修環境)  
(2) 研修機材の今後の動向・展望調査

### (3) 遠隔教育に関する将来展望及びニーズ調査

#### 4. アフターケア(1) 帰国研修員、その所属先の技術的問題に対する助言

#### (4) 調査結果

##### <研修ニーズ>

今回の調査で明らかになったのはアナログからデジタルメディアへの移行やインターネットの波は、確実に開発途上国に押し寄せ、調査国におけるこの分野への関心、意欲は非常に高いということである。また、アンケートや面談調査から、教職員を対象としたインターネットの基礎知識・技術や教育への利用を課題とした新設研修コースに対するニーズ、特に提供する情報のコンテンツ作成への要望が極めて高いことが窺われた。

##### <機材動向>

今回調査した国々の視聴覚教材制作の状況は、予想をはるかに超えてデジタル化が進んでおり、沖縄国際センターが進めているビデオコースのデジタル化、マルチメディアコースの充実で、研修員が帰国後、進みすぎたデジタル技術を身につけ、利用の機会がないのではないかという危惧は全くないことが判明した。むしろ積極的に充実させることが、デジタル化が進んでいる国のニーズに応えることになり得、一方、進み方の遅い国にとっては、デジタル化をすすめる指導者を育成することになり、大きな意味を持つと言える。ただし、留意すべき点は、ここ数年にアナログ機材を全面的に導入した機関からの研修員は、当分アナログ機材を使わなければならない状況に置かれると思われ、沖縄国際センターの古いアナログ機材は一部残しつつも、新しい機材としては編集機のノンリニア化を中心にデジタル化を進めるのが適当と思われる。アナログ機材は、あくまで過渡的、補足的に使うのが賢明な措置である。

#### 5-2 アンケート調査

1997年度以降の帰国研修員、視聴覚教材(教育・啓蒙活動等に用いる)の開発を実施している機関、JICA派遣専門家、青年海外協力隊やその他視聴覚の中で日本が協力できる分野は、様々な形態が考えられ、中でもニーズが高いのは、人材育成である。コンピュータの操作をできる人材の育成はそれ程時間のかかるものではないが、内容(コンテンツ)の制作者となるとそうは

いかない。計画、制作、評価の一連の流れを論理的に、且つ教育工学的な理論に基づいた効率的な教材制作を実施できる人材の育成が急務であることをほとんどの機関が認識しており、これは、アンケート調査の回答からも確認できる。従って、OICの視聴覚技術研修に於いては、「メディアオフィサー」（メディア教材の企画・開発・評価・運用責任者）の育成に努めたい。

また、機材等の研修環境については言及すると、多くの機関において既に最新の技術を取り入れられているが、反面、まだまだ機材環境の整っていない所も存在する。しかし、ニーズを調査すると、まだ最新機器が導入されていない所からも、本邦での研修では最新の機器に触れてみたい、との意見が圧倒的に多い。しかし、視聴覚分野で後進の地域に対応するためにも、研修実施上は現存アナログ機材を残し、個別に対応することも検討の余地がある。

なお、調査結果は巻末の「アンケート結果一覧」のとおりである。